

対馬海戦ゼミ教材の改版

君島 浩、教育設計研究所
三島市シルバー人材登録者(市営中央駐車場管理員)



Google
ストリートビュー

経営教育の研究会がゼミの場

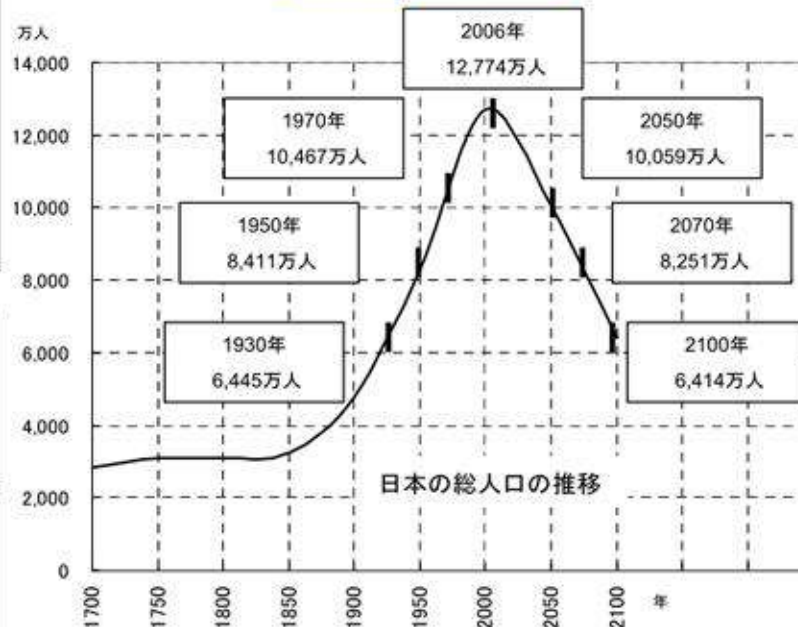
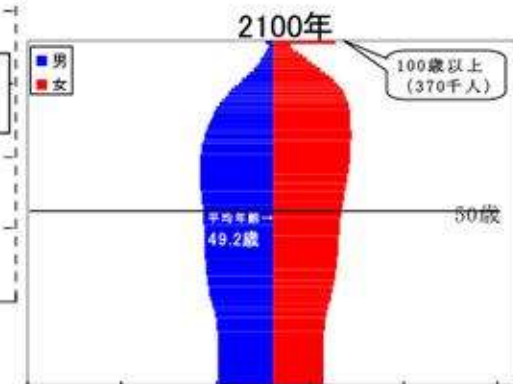
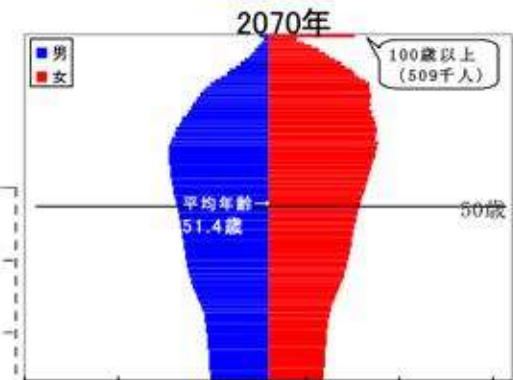
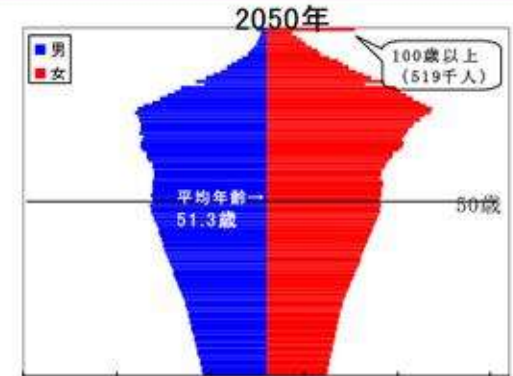
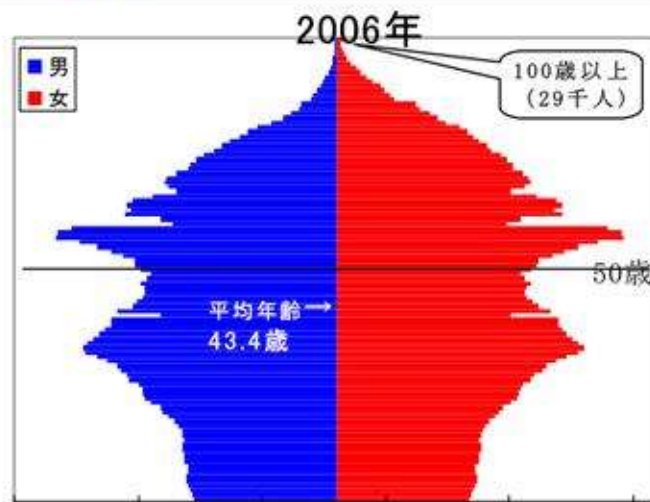
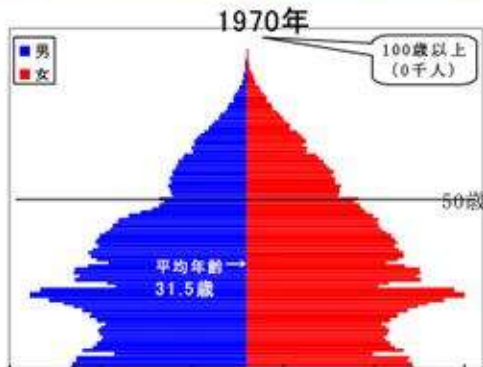
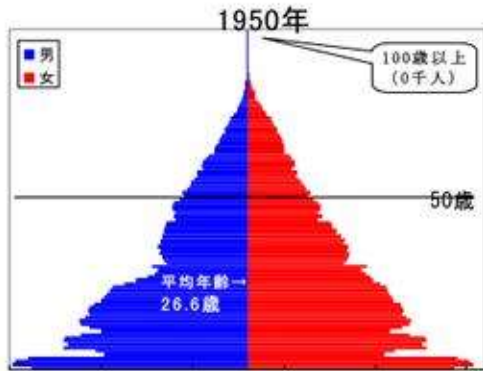
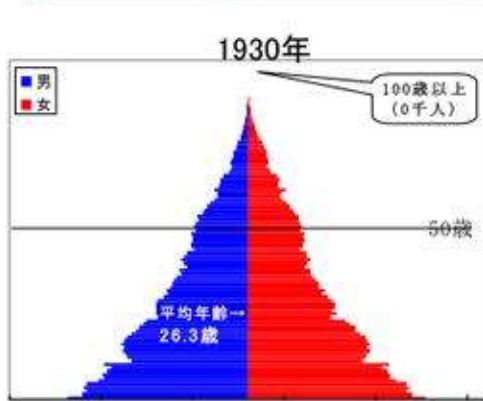
- 月例会で私は、時事や歴史のゼミ教材を発表。老化対策。
- 防衛省にいたので戦争、乗物、災害の話題が多い。
- 日本海海戦ゼミ資料初版 wikipedia等のミス指摘
- 改版：一次資料の史実のみの資料に



人事教育の師匠青木武一氏が今年逝去(93歳)
戦艦武蔵で研修。52駆逐艦隊の海軍主計大尉。部下に文部事務次官の井内慶次郎氏。
共同石油等の人事部長。杏林大学等教授。民間人教員採用の第一号。経営経済学博士。

15. 日本の人口ピラミッドの変化

少子少老化



(出典)総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」及び、国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」(1974年)をもとに国土交通省国土計画局作成。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 2013. 7 笹子トンネル天井落下死傷事故 | 「原因は保守不足ではなく設計不備」 |
| 2012.12 竜巻防災のための農地林 | 「竜巻は江戸時代の開拓農地が生む」 |
| 2012. 2 雪下ろしは窒息が怖い | 「雪が口や肺を圧迫」 |
| 2012. 2 法隆寺の建築デザイン | 「太子・二王子図は整列姿ではない」 |
| 2012. 1 地震関係のいくつかの話題 | 「津波死学校訴訟は校長による」 |
| 2012. 1 元禄赤穂事件の真相 | 「赤穂市民は義士祭が嫌い」 |
| 2011.11 天竜川川俣地区川下り船転覆 | 「転覆させたのは河原の木」 |
| 2011. 7 新潟豪雨 | 「逃げて助かる越後人の伝承」 |
| 2011. 4 能力等級制度の中止 | 「財務省が人事論の迷走を阻止」 |
| 2011. 3 東日本大震災 | 「津波は落ちてくる」 |
| 2011. 2 報道エラー | 「飛行機が鳥を吸い込むはずがない」 |
| 2011. 2 八甲田山雪中行軍遭難 | 「新田小説が教材に使われる不思議」 |
| 2010. 7 ヘリコプターの事故 | 「ヘリコプターにはアクセルがない」 |
| 2010. 7 メンタルヘルス教育 | 「厚生労働省では精神病＝うつ症」 |
| 2010. 7 窒息死 | 「健常者でも簡単に死ぬ肺不全」 |
| 2010. 7 政治主導 | 「大臣は議員であっても行政者」 |

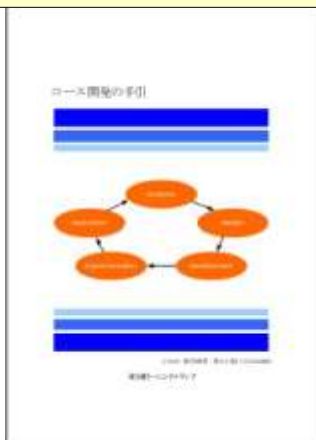
私の経歴と、老後のゼミ教材作成作業



FORTRANコンパイラ開発
ソフト開発作業標準の改版

55歳まで富士通

教育作業標準(ID)の改版



国立公文書館
ウェブを閲覧

富士通サーバが約
2700万ページの
公文書のPDF提供

日露戦争特別展 II
開戦から日本海海戦まで
激闘500日の記録

Information

- 2011.2.15 第3回公開を行いました。
「日露戦争史」の全ての解説ページが開くようになりました。
「日露戦争トピック」の項目が追加されました。
- 2010.9.17 第2回公開を行いました。
- 2010.3.31 本特別展をオープンしました。

日露戦争はわかり
資料解説を見る

肩叩きされた民間人を海上自衛隊が採用。教育専門官(6級) 教官マニュアルをID・ipstpi教育スキル標準に合わせて改版

海上自衛隊訓令第4号

海上自衛隊の教育訓練に関する訓令を次のように定める。

昭和42年6月7日

防衛庁長官 増田 甲子七

海上自衛隊の教育訓練に関する訓令

改正

昭和42年7月26日	防衛庁訓令第14号	平成9年1月17日	防衛庁訓令第1号
昭和43年9月30日	海上自衛隊訓令第21号	平成9年3月6日	海上自衛隊訓令第5号
昭和44年3月7日	海上自衛隊訓令第4号	平成9年3月28日	海上自衛隊訓令第7号



第3節 術科教育

(術科教育の区分等)

第27条 術科教育は、一般術科教育、

2 海上幕僚長は、それぞれ次に掲げ
要の課程を置くものとする。

(1) 一般術科教育

海士特技課程

中級の海曹特技課程

上級の海曹特技課程

初級の幹部特技課程

教育訓令の改定は防衛大臣の仕事
教育訓令はカリキュラムや担当者を規定

- IDやibstpi標準で間に合わないこと?
- 経営の定石が基盤になっているか
- 自衛隊は教育にも規則と帳票がある
- 会社、学校、役所、病院を自衛隊から見ると「規則なしでよく教育できるね」

日本海では蔚山、元山津、ウラジオでも海戦あり 外国は対馬海戦「Battle of Tsushima」と呼ぶ



対馬海戦の山場(第1合戦)の位置



沖の島の神社付人の観戦日誌

宗像神社沖津宮日誌抄（明治三十八年）

五月二十七日、西風強曇天霧霞。

一 本日、日供奉仕如例。

主典 宗 像 繁 九
使夫 市 五 郎

一 本日、午前七時四十分頃、敵艦隊東水道を通過せしもの如し。警戒を要すとの至急電報ありしと、望楼よりの報知に接す。正午より、本島の西北に當り、砲聲盛に聞ゆ。午後一時頃、我艦隊見えざりしやの電報ありし旨、通知を得、一同視線をこらして、海上を警戒中、二時十五分頃より、砲聲次第に近づくが如く聞ゆ。氣を付けて西方を見れども、本日は霧霞のため海上五海里の外は見えず。見張りに困難なりき。二時半頃、敵か味方か、一隻は砲火を前後左右に受け、最も苦戦の有様にて、極力應戦しつ、西南四海里の處に現はる。我艦か敵艦か、我ならずば必ず敵ならんこと、ひとみを定めて、能く望めば、豈計らんや、我和泉艦、敵艦の砲撃を受け應戦しつ、退却するにあり。間もなく、敵の艦隊十八隻、水雷驅逐合せて五六隻、忽然として四海里の處に現はる。其の陣形は整はざるも、艦間水雷驅逐を挟み、西北に向ひ進航す。余等一同、怒に堪へざるも、如何ども

爲す能はず。望楼にては、直に所々に急報せしと。此の間、人皆敵の動作に氣を付け居りしに、二時四十分、忽ち見る、四隻の軍艦、西南に現はる。一同又々敵艦の後れて至るならんこと、恐慌の念禁する事能はず、凝視すれば、喜ぶべし。これ待ちに待ちたる吾艦、千代田、常盤、磐手、八雲の四艦、敵を搜索のため至れるなり。直に砲火は開かれたり。殷々たる砲聲は、刻一刻に激を加へ、天柱爲に裂け、地維將に挫けんとするが如く、砲烟漠々、海上を蔽ひ、閃光爛々、海若爲に夢を驚かし、加之、強風怒濤、裂々として、海上に吠ゆ。朝來薄霧にこめられたる海上の光景、益々陰慘の度を高め、其の凄絶壯絶の感を極む。午後三時、吾艦敵を壓迫し、敵艦方向を轉じ、逸出せんとし、吾又之を遮らんとす。此の時早く、遠く海上に我艦隊の主力五十隻餘現れ、共に遁路を断ちて包圍攻撃をなすや、敵は愈々隊形を亂して苦戦、我艦挟み追撃しつ、西北に進航、午後四時に至りて、敵の隊列、四離七裂、苦戦して各艦各自に逸出せんとするが如し。此の際の海戦三所に演ぜられ、戦團艦は、彼我互に組み、驅逐巡洋各艦共、彼我番組を爲すが如く思へり。此の時、敵艦の二艦、火災を起し、一は高橋折れ機關部の損せしものか、斜形して幾かに苦戦をなせり。吾艦も（磐手ならんか）損所を生せしものか、一時隊形より離れ、後方にて應急の手當をなし、直に戦列に加はりたり。五時頃よりは、追撃となりて、本島を遠ざかるが故に、日没と共に見る事を得ざりき。午後八時頃、電話にて、敵艦三隻、西南に向ふ如し。探海燈を點せしに、今は見えず。警戒を頼む

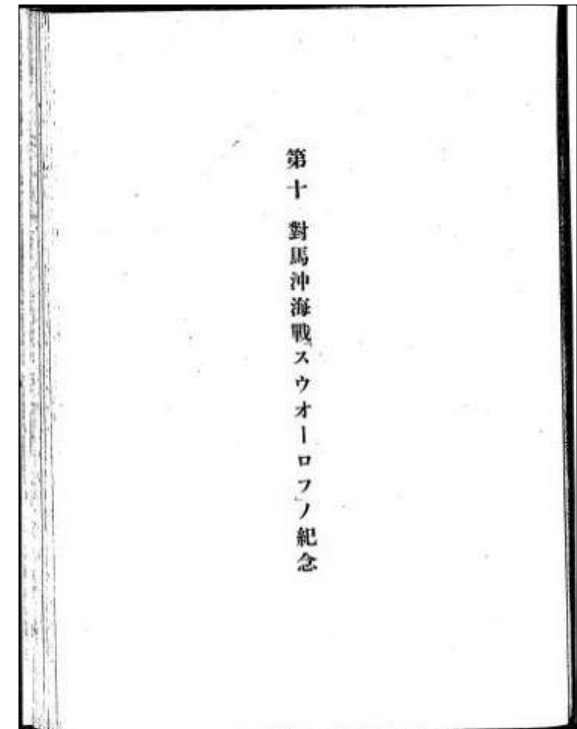
ゼミ資料の基にした日本海海戦の公文書



明治37年分 642ページ

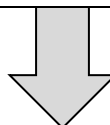


明治38年分 568ページ



ロシア旗艦記録 82ページ

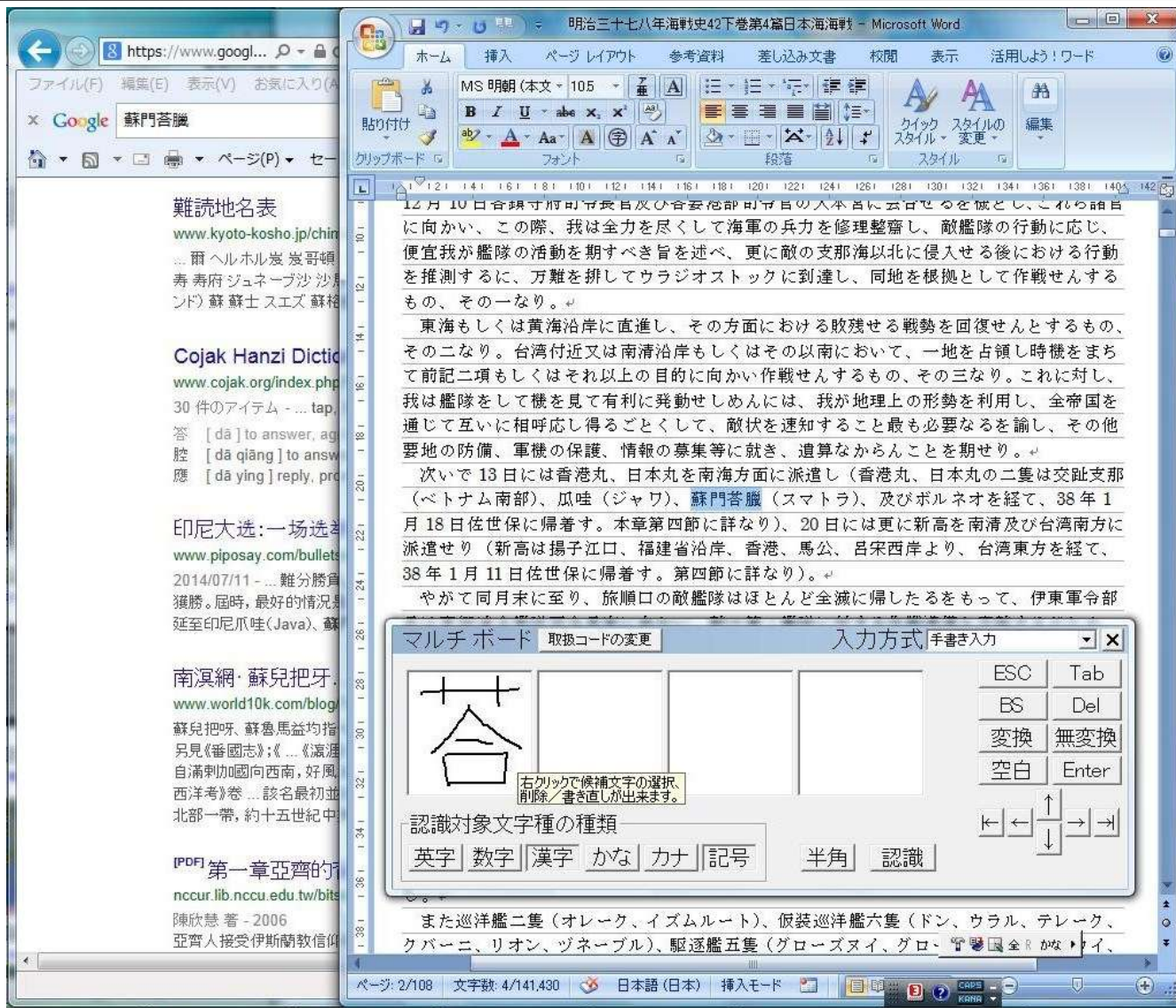
・・・ヲ猛射セリ是ヨリ先キ敵ノ右翼列ハ前進シテ左翼列ヲ併セ單縦陣ヲ作ラントスルモノハ如クナリシカ今ヤ兩列トモ漸次東方ニ變針シテ不規則ナル單縦陣形ヲナシ我ト並航スル姿勢トナレリ我モ亦時々少シク針路ヲ變シ驅逐隊ハ敵ノ弾着距離以外ニ在リテ適宜ニ運動シ第一第二戦隊ハ愈々彼ヲ擊壓セシニ幾モナクシテ第五番ニ位セル「オスラービヤ」ハ大火災ヲ生シ黒煙空ニ騰ル次テ彼我・・・



・・・を猛射せり。

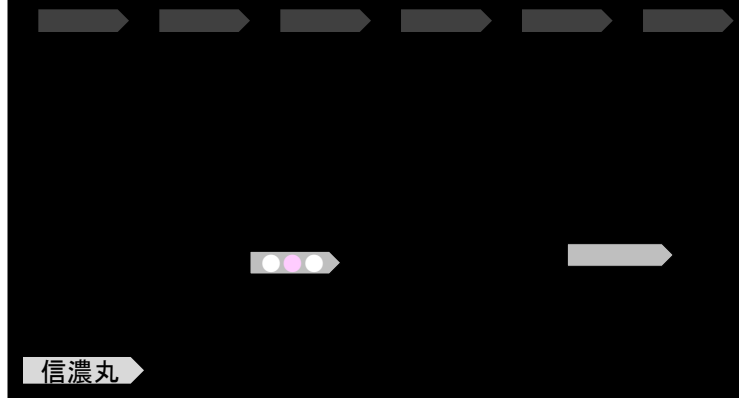
これより前、敵の右翼列は前進して左翼列を併せ、単縦陣を作らんとするものの如くなりしが、今や両列とも漸次東方に変針して、不規則なる単縦陣形をなし、我と並航する姿勢となれり。我もまた時々少しく針路を変じ、駆逐隊は敵の弾着距離以外にありて適宜に運動し、第一、第二戦隊はいよいよ彼を撃圧せしに、間もなくして第五番に位するオスラービヤは大火災を生じ、黒煙空に騰る。……

旧漢字は手書き入力やウェブ辞書で調査

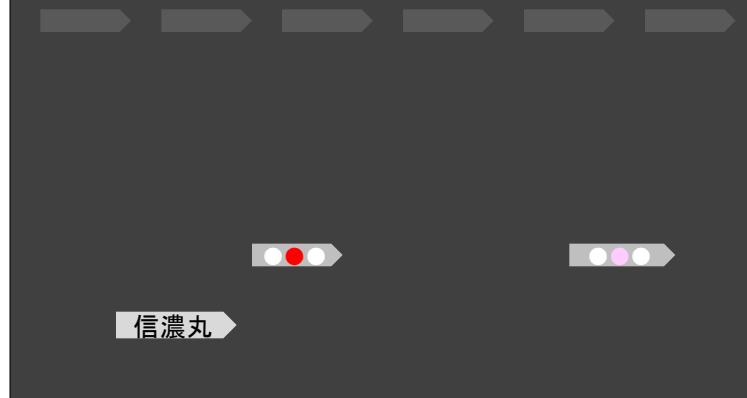


信濃丸のロシア艦隊発見

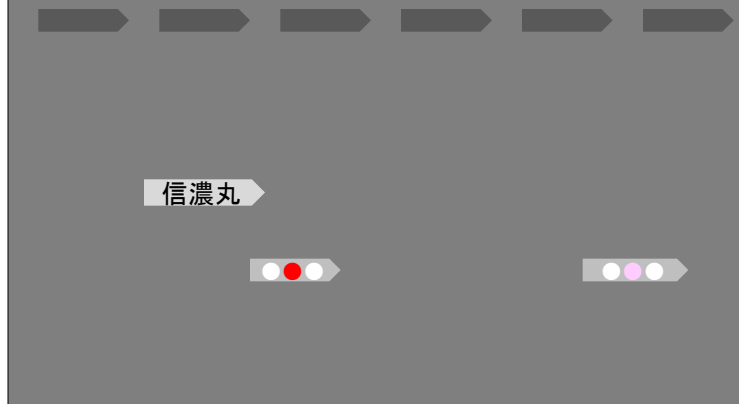
2時45分 汽船の灯火を発見



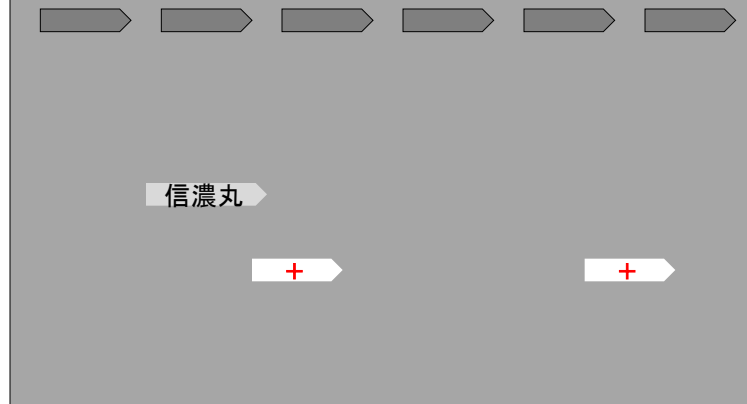
3時55分 白赤白の三点灯火と分かる



4時40分 左舷廻り臨検しようとして近づくと



4時45分 左舷に十数隻の艦影発見



そんなこと書いてあるのか

一次資料「信濃丸日誌」

午前2時45分～一汽船の灯火を認め、3時55分に至り～漸次接近せしに、彼れの右檣に白・赤・白の3灯を連掲するを認む。～後方を廻り左舷に出でて、4時30分～敵の仮装巡洋艦ドニエプル号と同型なり。～4時40分～備砲なきもののごとし。よってあるいは病院船ならんかと想像し・・・

黎明(夜明け)～臨検(乗船捜査)の手續に着手せんとする時～艦首の左舷に～十数隻の艦隊となお数条の煤煙を見、(信濃丸の)艦位既に敵艦隊の列間に突入しおるを悟り、直ちに転航し～無線電信にて敵艦隊の東航しあるを報告し～

敵艦隊はすべて灯火を密閉しあるに関わらず、病院船は普通航海灯と特別標灯を加え掲揚せしたり。思うに敵の大失策ならんか。もし他艦と同様にすべて灯火の表出なかりしならば、～到底彼らを発見するを得ず。

二次資料「日本海海戦」(wikipedia)

午前2時45分～艦長成川揆大佐指揮の連合艦隊特務艦隊仮装巡洋艦「信濃丸」が汽船(バルチック艦隊の病院船「オリオール」であった)の**灯火を夜の海上に視認した**。接近したところ、4時45分突如**無灯火**航行中の艦影・煤煙を多数視認し、此を無線電信で通報せんとした。「敵艦見ユ」である。

「信濃丸」が夜間に病院船「オリオール」を発見できたのは、バルチック艦隊で**1艦だけ「オリオール」が灯火管制を守っていなかったためであった**。

日露海軍は旧知の間柄

- 1853年 吉田松陰が、長崎で密航しようとしたロシア軍艦に乗り遅れ
- 1861年 ロシア軍艦が対馬來航。租借地要求事件
- 1891年 ニコライ皇太子(日露戦争時の皇帝)が世界各地を軍艦で歴訪。
日本では長崎→鹿児島→神戸・京都(大津事件)



御召し艦(巡洋艦)アゾヴァ

装甲巡洋艦モノマフ

装甲艦ナヒモフ

砲艦コレーツ(高麗)

砲艦ポーブル

砲艦マンジュール

日本側の先導艦は八重山 対馬海戦では通報艦

対馬海戦で魚雷被害。降服後に自然沈没

対馬海戦で魚雷被害後に自沈

仁川港戦で砲撃被害後に自沈

旅順陸戦日本勝利後の陸砲により旅順港で破壊

対馬海戦では中国に待機。日本船になり1945年に空襲で破壊

1895年 太平洋艦隊が長崎・横浜に分散寄港。清へ三国干渉の時に日露は一触即発の状態

日露戦争でも初年から手合わせ



日露共に対馬通過案が第一候補



ロシア側の史実

- 外洋での突破は容易。撃滅はない。
 - 海峡突破後の主戦場は対馬が広い。
 - 津軽・宗谷でも対馬から駆けつけ可能
- 津軽・宗谷案の利点・成功率は小さい

「史上稀な完勝」は主観。本格海戦がそもそも稀



ボクシング型の対等戦でなく
アメフト型突破戦なのも稀



戦艦・巡洋艦・駆逐艦は三すくみ

戦艦(大型艦): 全長131m、229mm厚の補強



直径30.5cm、長さ91cmの砲弾



敵艦の戦闘機能を劣化させる。
しかし沈没させるのは困難。
船は重いので逃げるのは不得意。

巡洋艦(中型艦): 全長105m、89mm厚の補強



直径7.6cm、長さ30cmの速射砲弾



機関銃に似て命中率が高い。
駆逐艦なら破壊できる。
20cm砲を持つが主役艦ではない。
戦艦の護衛や遠地出張に向く。

駆逐艦(小型艦): 全長69m、25mm厚の補強



直径45cm、長さ5mの魚雷



水線下の舷側を破壊して沈没させる。
接近しないと命中不良なので夜に活躍。
昼間は掃海や沈没船救助など。

沈船の敵兵を救助するのは武士道か

1904.2 ロシア「もし二隻の駆逐艦を派遣するにとどめず、四～六隻を出したらんには、日本沈船の将兵の一部を捕虜にできただろうに。日本船の将兵のほとんどが日本側に救出せられたる事実は、将来に影響大である」

1904.5 ロシア「(沈船から浜辺へ逃れた)日本兵19名を捕虜とせり」

1905.1 203高地戦のロシア軍降服の条約で、日本軍の捕虜を返還。

日本沈船の乗員が捕虜となりて生存せるを発見。

上村長官は、沈没させたロシア艦リューリクの乗員の救助を命じた。「溺れる者を悉く救助せよ」とあった。第二戦隊の旗艦出雲は、沈没したリュウリク乗員の生存者のほとんどを救出した。

この行為は、日本武士道的美談として、ロシア戦史に特筆されると同時に、海軍軍人の範として全世界に伝わり、各国海軍の間で語り継がれている。

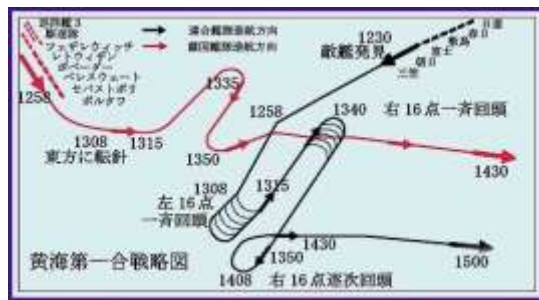
- 日本軍だけの美談とされがちだが、ロシア軍も敵兵を救助している。
- 敵兵を救助するのは国際慣行と実利があるからだ。

アメフト型海戦の改善の経過

図の出典:「日本戦艦史」(<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Ohgai/3853/jnbh/jnbh22.htm#name1>)

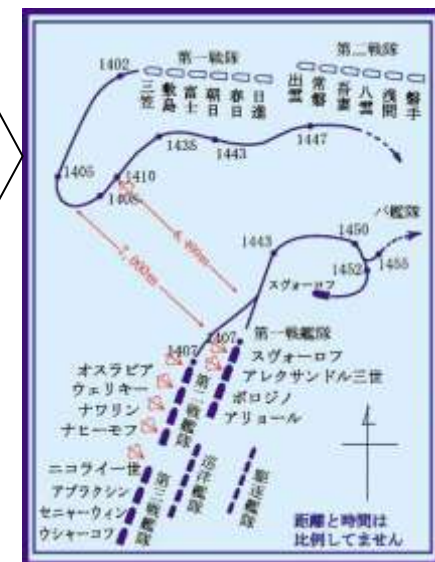
1904年8月黄海海戦

第1合戦 T字戦法不発で
露軍ファーストダウン成功



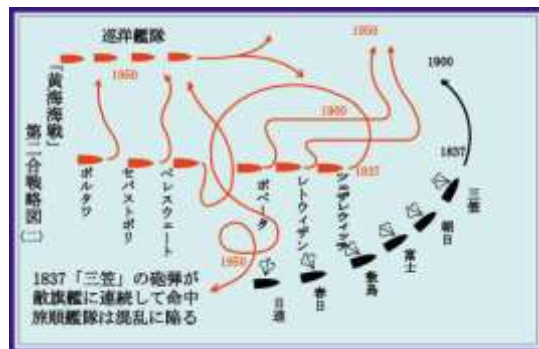
1905年5月対馬海戦

第1合戦 T字戦法
露軍ファーストダウン失敗



②後で
ここを比較

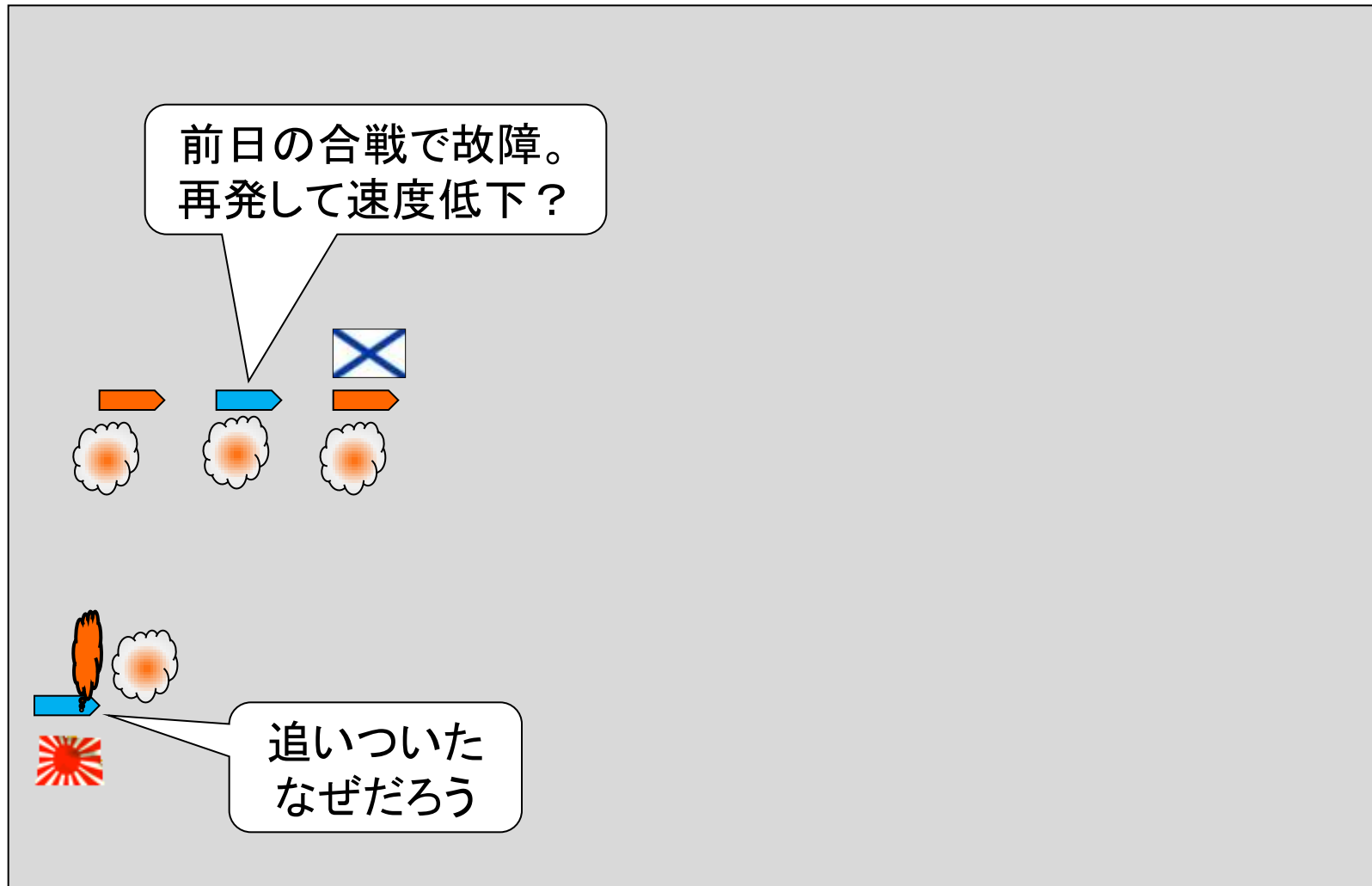
第2合戦 追跡しT字戦法
露軍セカンドダウン失敗



①最初にここを解説

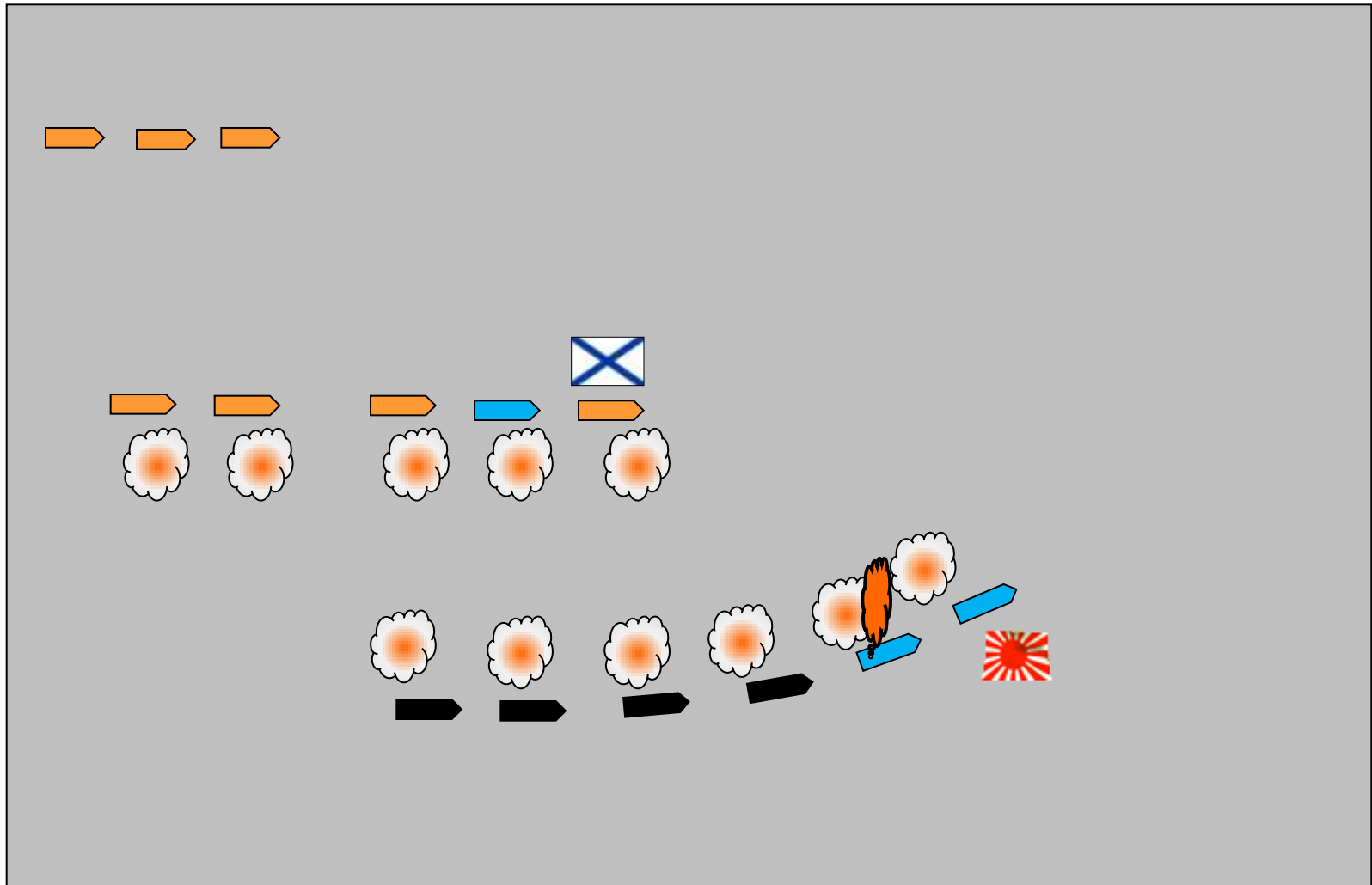
黄海海戦第2合戦 17:38 砲戦再開

14:30に突破されたが、夕方の17:30頃追いつけた

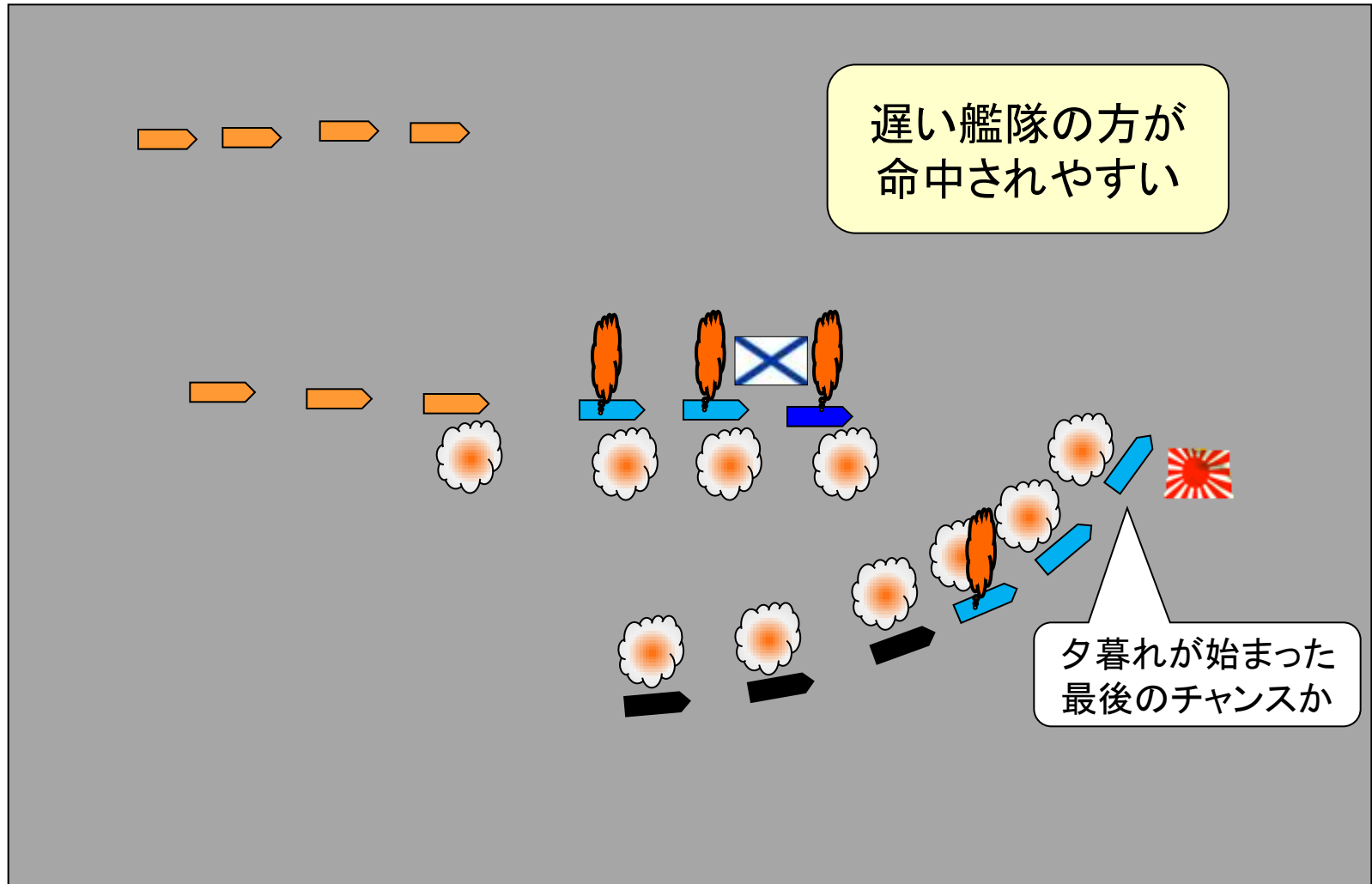


18:07 並航戦からT字戦法再開へ

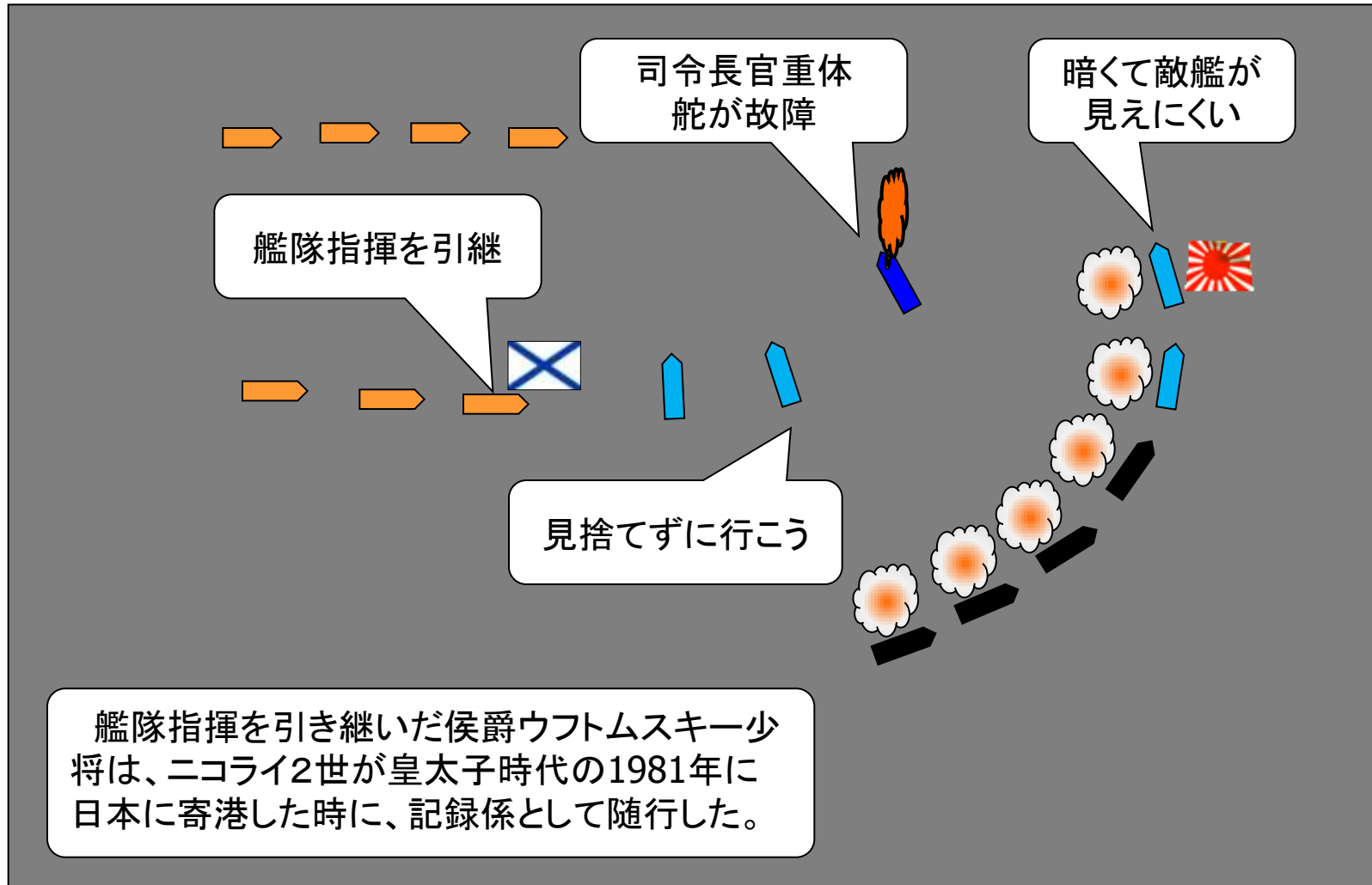
(注:背景の灰色は夕暮れの度合いを表す)



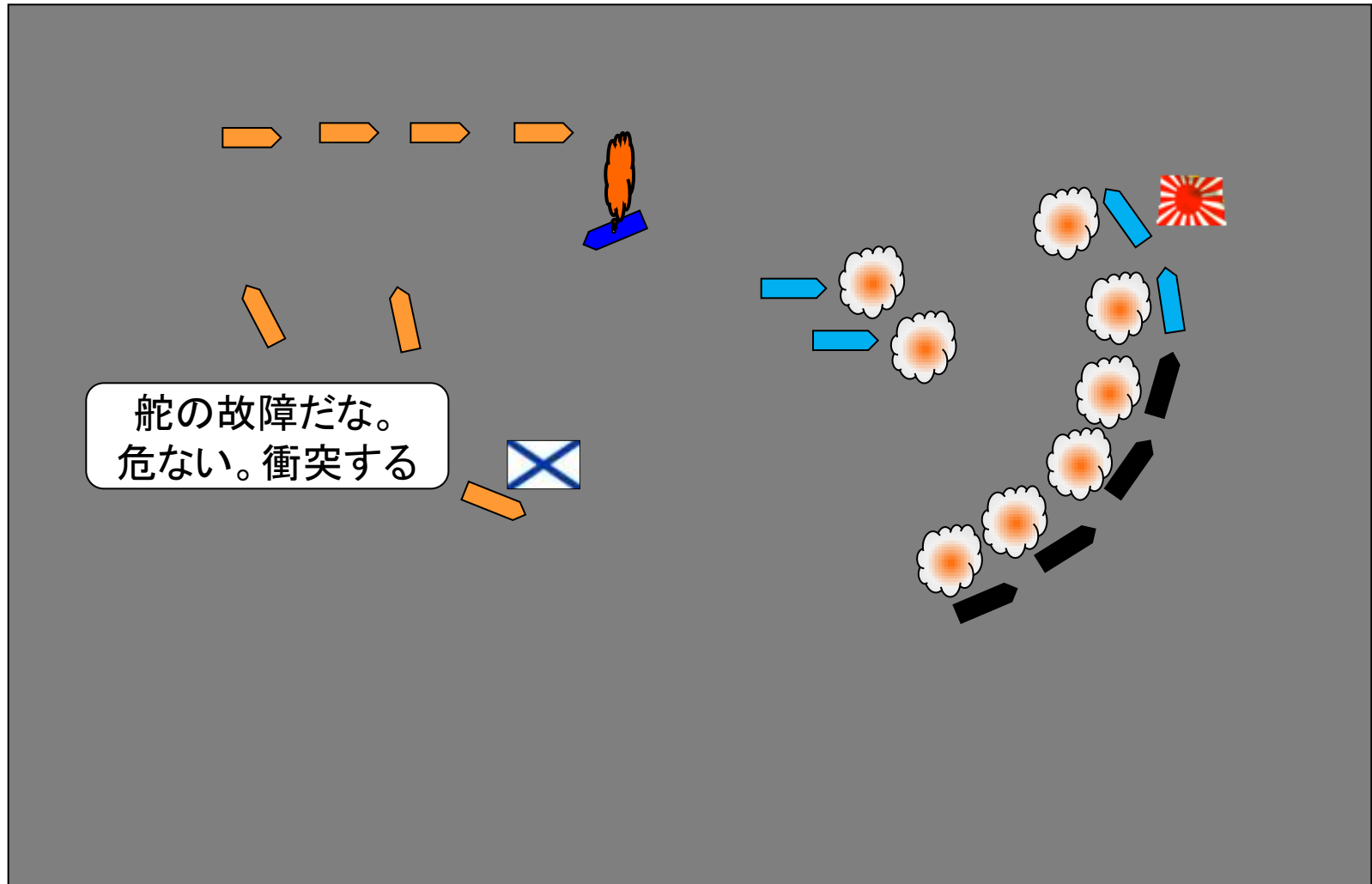
18:37 ロシア旗艦に着弾2発



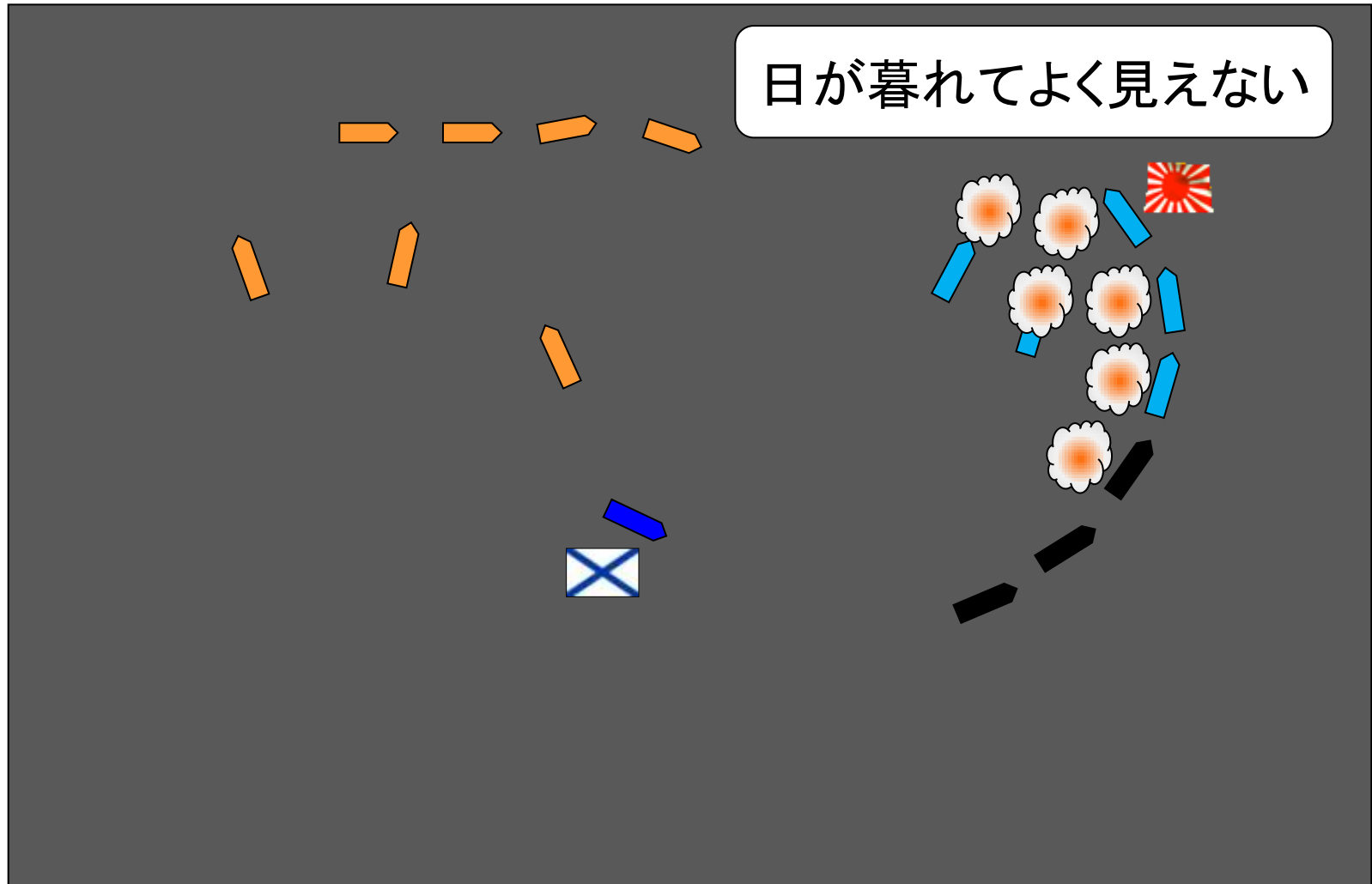
18:50 ロシア旗艦が左転針。後続艦は追隨



19:00 旧旗艦が左回転継続。他艦は衝突回避

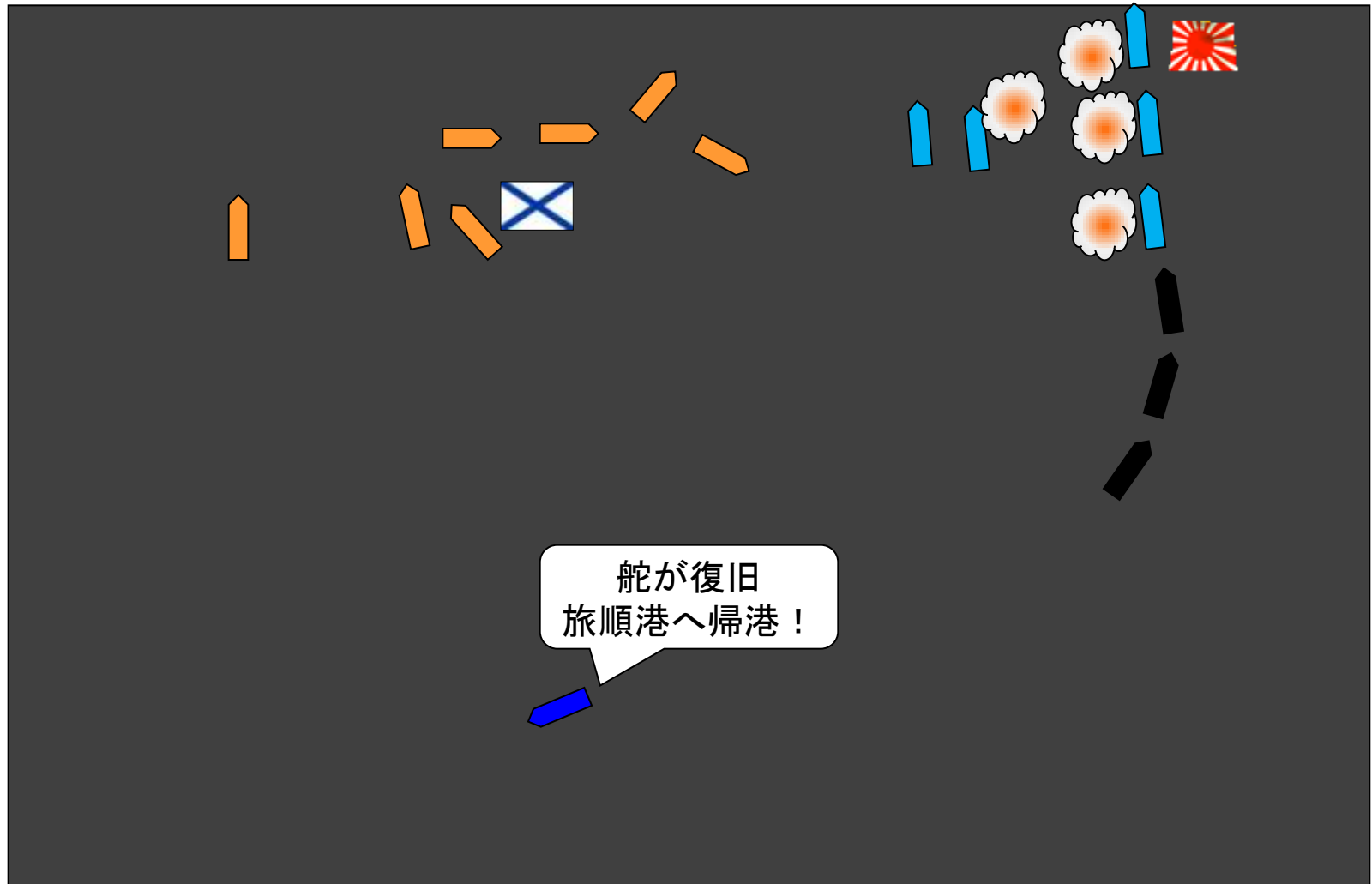


19:25 旧旗艦が左回転継続。他艦は回避終了



19:50 ロシア艦隊は旗艦と別行動
20:00 砲戦終了。夜間の駆逐艦襲撃へ。

翌日：ロシア艦隊は石炭欠乏等により出発地へ帰港へ





黄海海戦第2合戦で得られた教訓

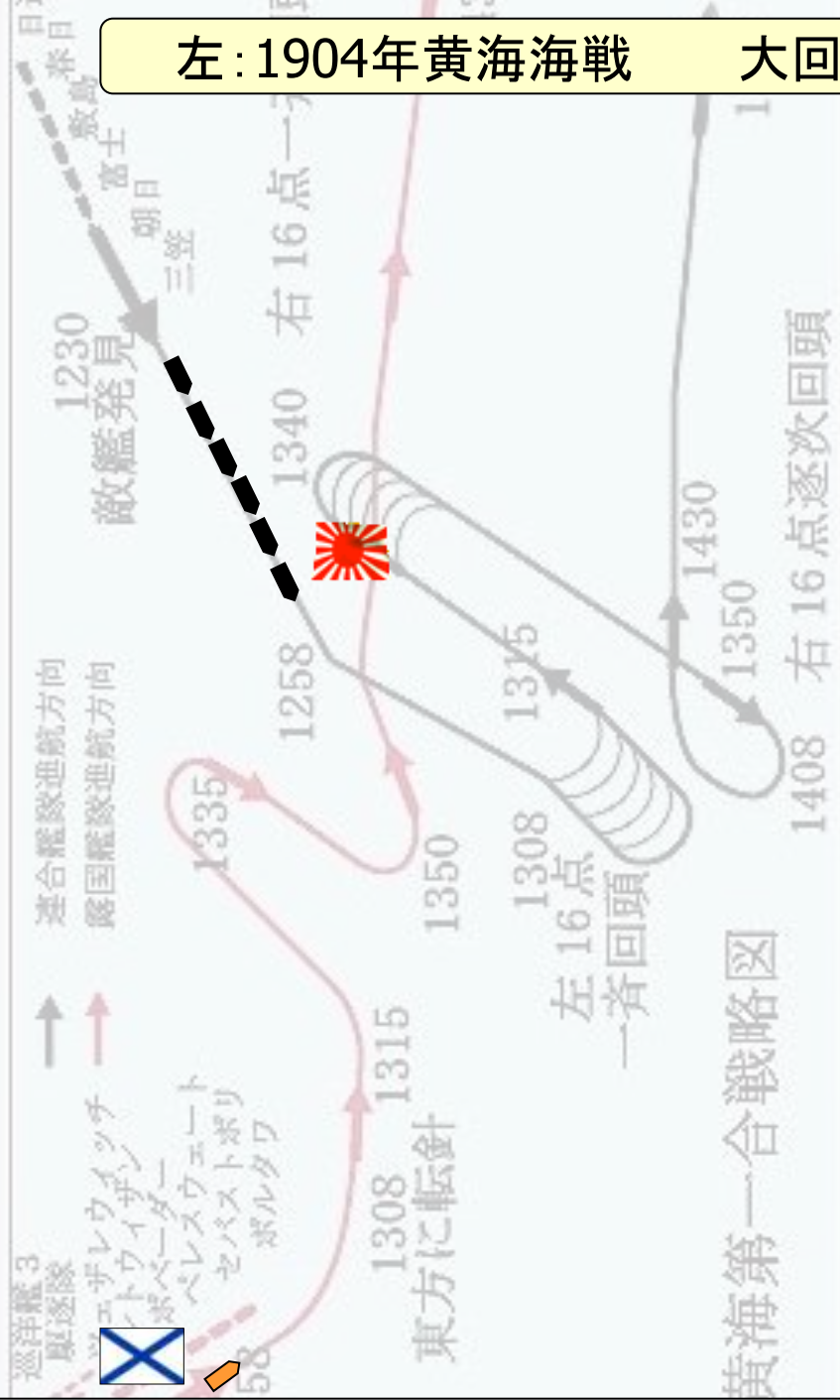
日本：第1合戦は敵の旅順への引還しも想定。離れた砲戦が失敗。
第2合戦は接近して砲撃が成功したが、我々も危険だった。
魚雷と違って砲撃では撃沈は難しい。
夜間の魚雷戦も撃沈の成功率が極めて低かった。
「アメフット」守備側は敵の全艦隊撃沈を成功させるのは困難
次回はどうしたらよいか？

ロシア：突破は難しくない。しかし、
第2合戦は、故障や旗艦火災により、突破に失敗。
「アメフット」攻撃側は突破は容易だが、全艦ゴールは困難。
次回はどうしたらよいか？

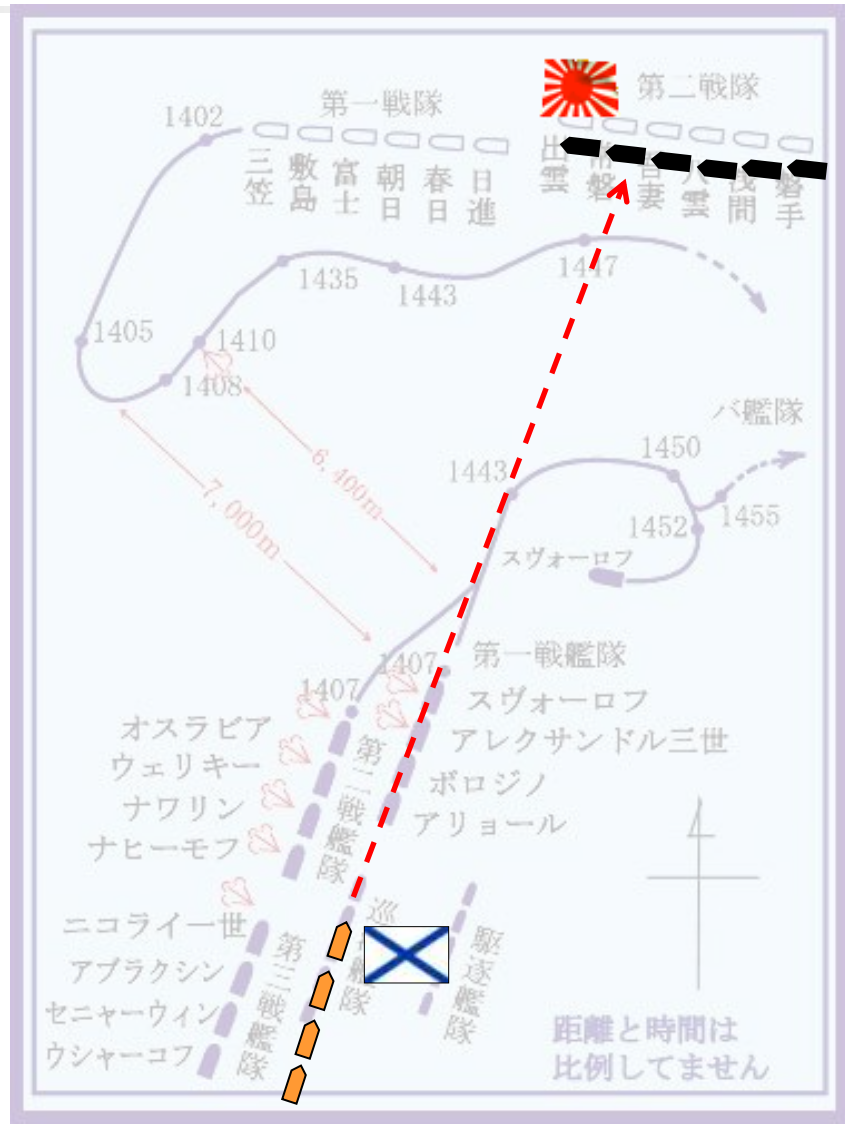
左: 1904年黄海海戦

大回頭15分前

右: 1905年対馬沖海戦



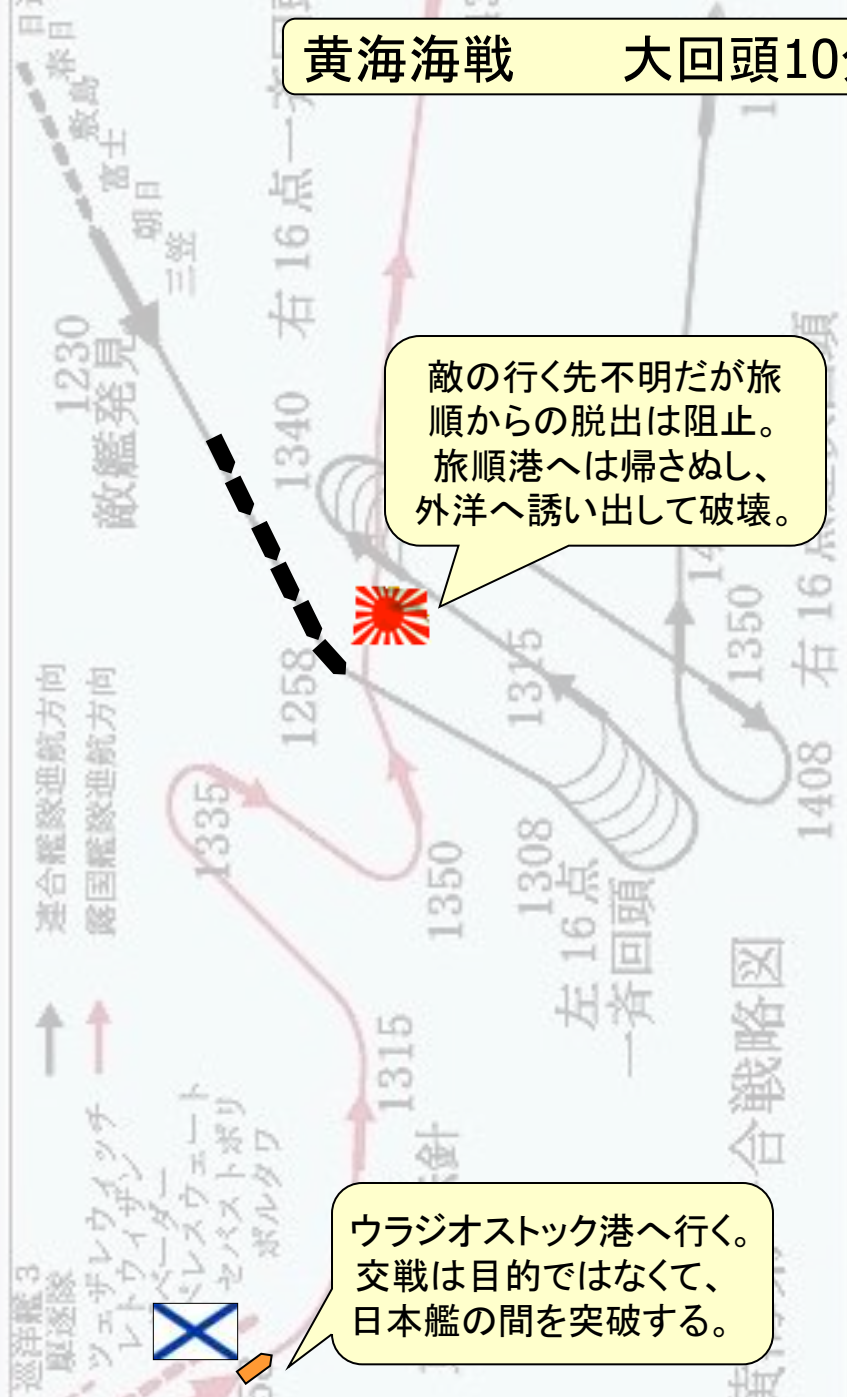
黄海第一合戦略図



黄海海戦

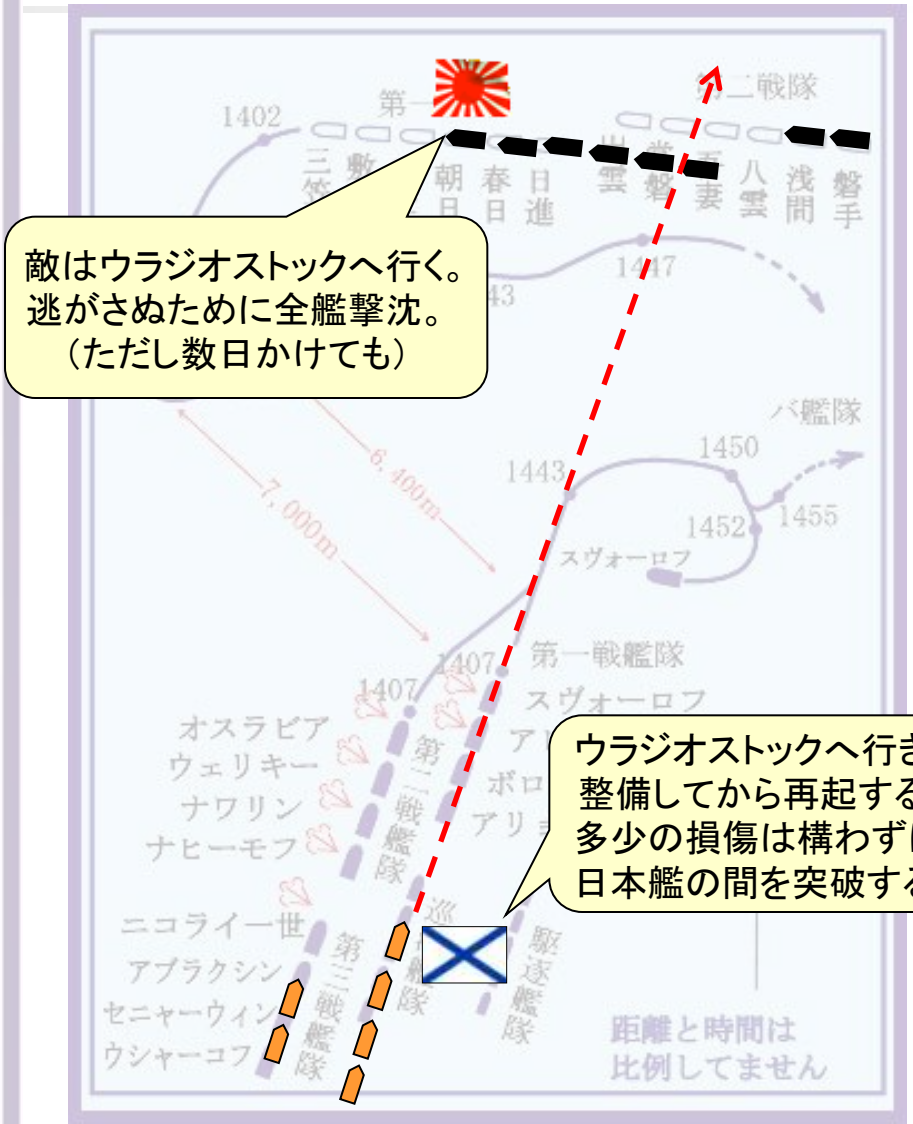
大回頭10分前

対馬沖海戦(第1合戦)



敵の行く先不明だが旅順からの脱出は阻止。旅順港へは帰さぬし、外洋へ誘い出して破壊。

ウラジオストック港へ行く。交戦は目的ではなくて、日本艦の間を突破する。



敵はウラジオストックへ行く。逃がさぬために全艦撃沈。(ただし数日かけても)

ウラジオストックへ行き、整備してから再起する。多少の損傷は構わずに、日本艦の間を突破する。

黄海海戦

大回頭5分前

対馬沖海戦



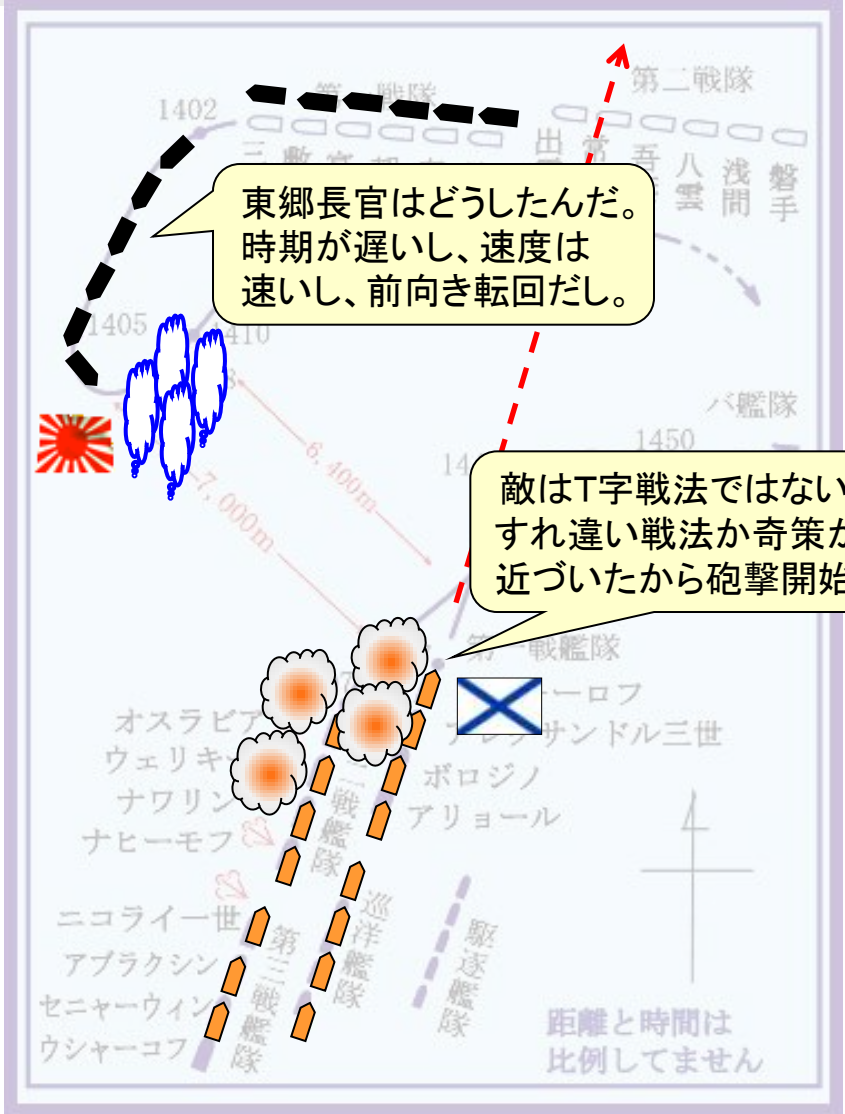
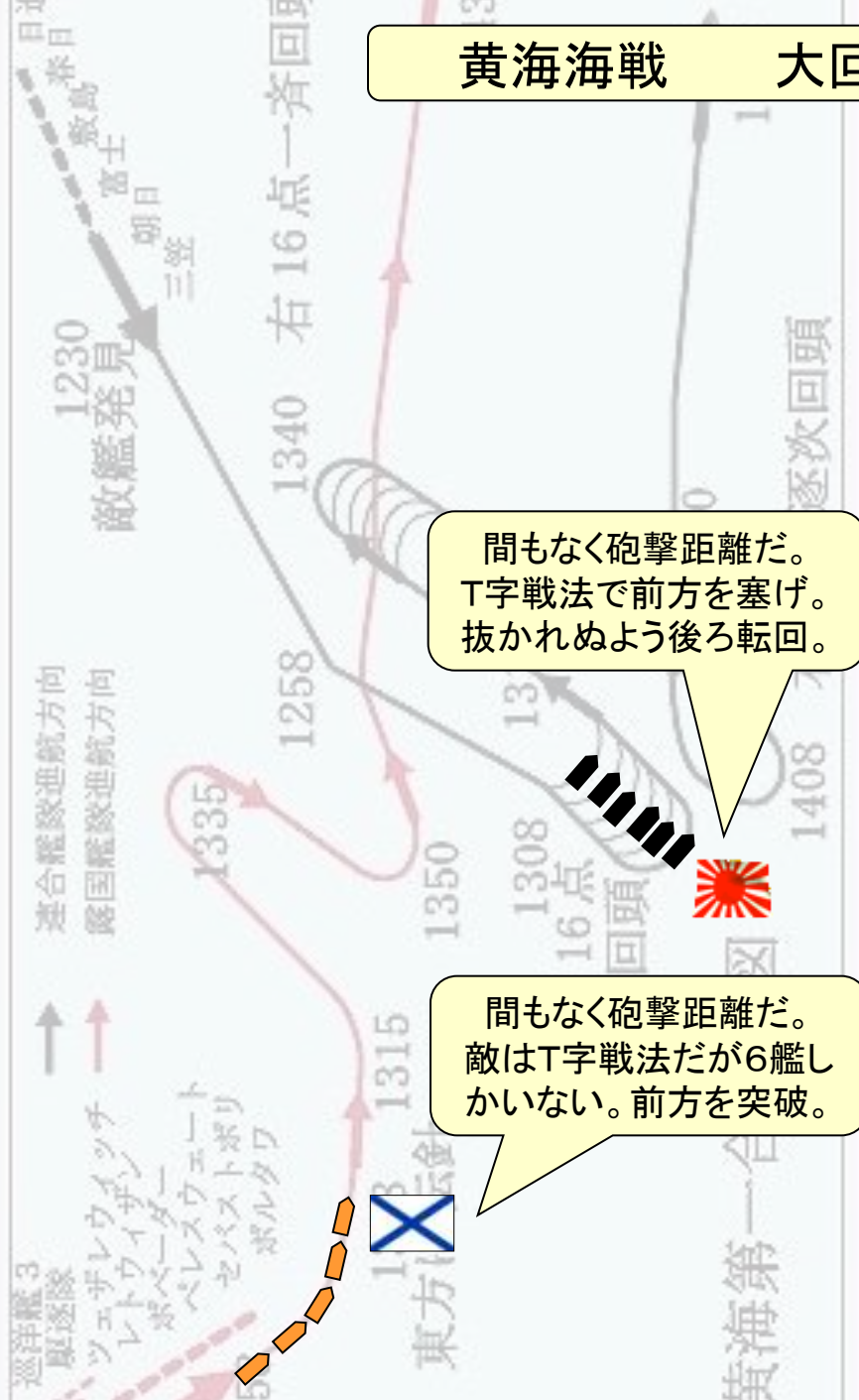
1回目のT字航法をした。
 通過阻止の圧力はかけた。
 次回のT字で砲戦だ。

1回目のT字航法が終了。
 通過阻止の圧力をかけて、
 次回のT字で砲戦だ。

敵はT字航法で通過しかけて
 いる。少し左転して
 後ろすり抜けを探ろう。

黄海海戦の策と同じだ。
 こちらは直進のまま接近
 して砲撃を早めよう。

黄海海戦 大回頭0分 対馬沖海戦



黄海海戦

大回頭5分後

対馬沖海戦

T字から並航になりそうだが、旅順に戻られるよりはマシだ。砲撃用意。

T字は避けられそうだ。並航戦しながら、前方突破か後方突破か選ぼう。

前向き転回で短期接近できた。一発試射して距離を測ったら一斉砲撃。

去年と同じT字崩れの並航戦法だった。去年と違い予定の航路を進める。

距離と時間は比例してません

黄海海戦

大回頭10分後

対馬沖海戦

砲撃開始！左転されて
距離があるので命中不良

砲撃開始！
しばらく並航しよう。

敵の先頭二艦が火災。
これで船足が鈍る。
10分で半ば成功した。

去年と違って、すぐに旗
艦がやられてしまった。
司令長官命令が滞るぞ。

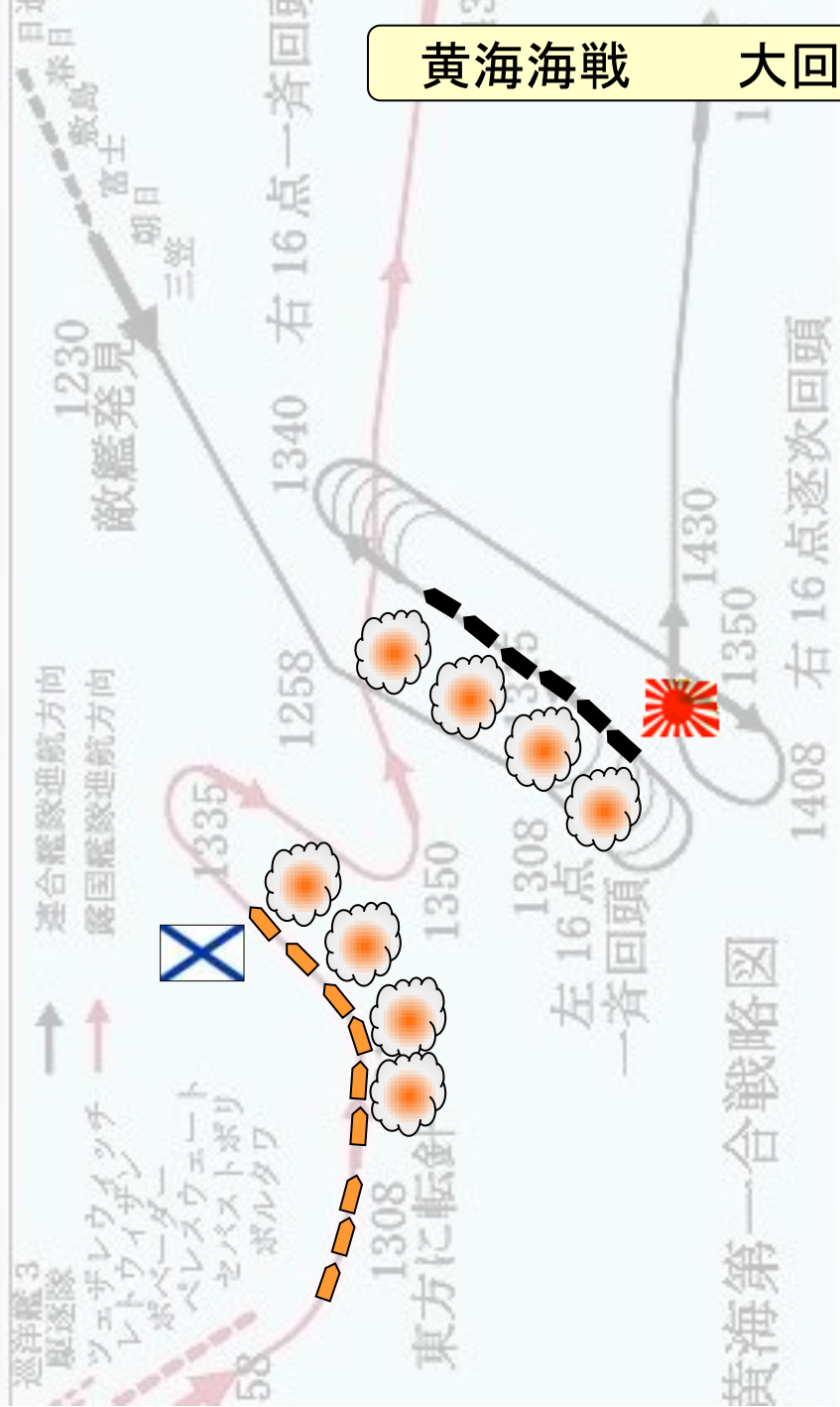
距離と時間は
比例してません



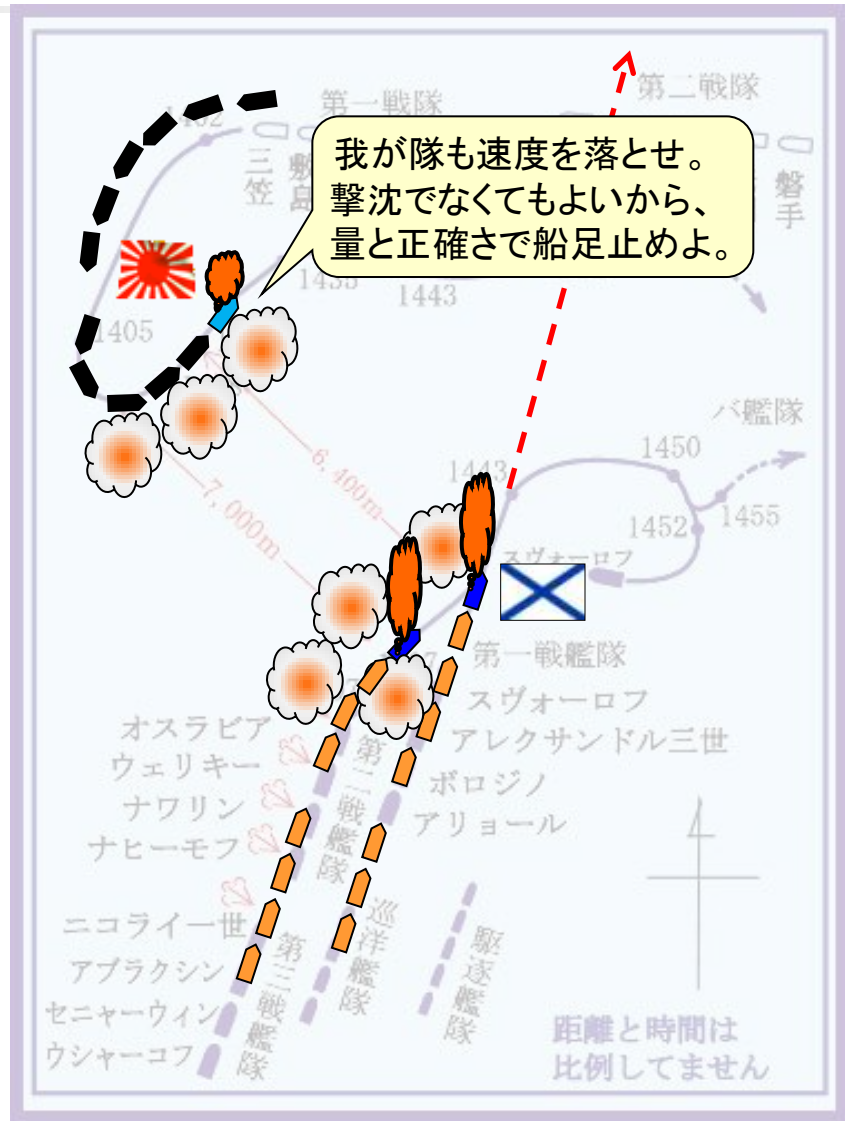
黄海海戦と比べての違い

- ロシア艦隊の航進が遅い。後続の小型船に合わせるため。
- 日本艦隊の航進が極めて速い。
- 日本艦隊が回頭して短時間でロシア艦隊へ向かって接近。
 - 接近中は距離が変化するので、どちらの艦隊も距離を予測しにくい。
- 日本艦隊が回頭して並航戦になり速度を落とした。
 - 並航戦は敵との距離が一定で、速度が同じなら砲の角度の計算が容易。
 - まず先頭の三笠が試射して着弾位置を観測し、距離と角度を修正した。
 - 適切な距離や角度を他の艦へ通信してから、全艦砲撃を始めた。
 - ロシア艦隊は試射が不十分なまま全艦砲撃を始めたので命中しにくい。
- 見落としがちなのは時期(タイミング)の遅さ
 - T字戦法でTの字を作るのには、遅過ぎる時期だった。
 - T字にするよりも、敵艦隊の先頭艦の船足を遅くするのが決め手だった。
 - 先頭艦の船足が遅くなれば、後でT字にすることは可能。

黄海海戦 大回頭15分後 対馬沖海戦



黄海第一合戦略図

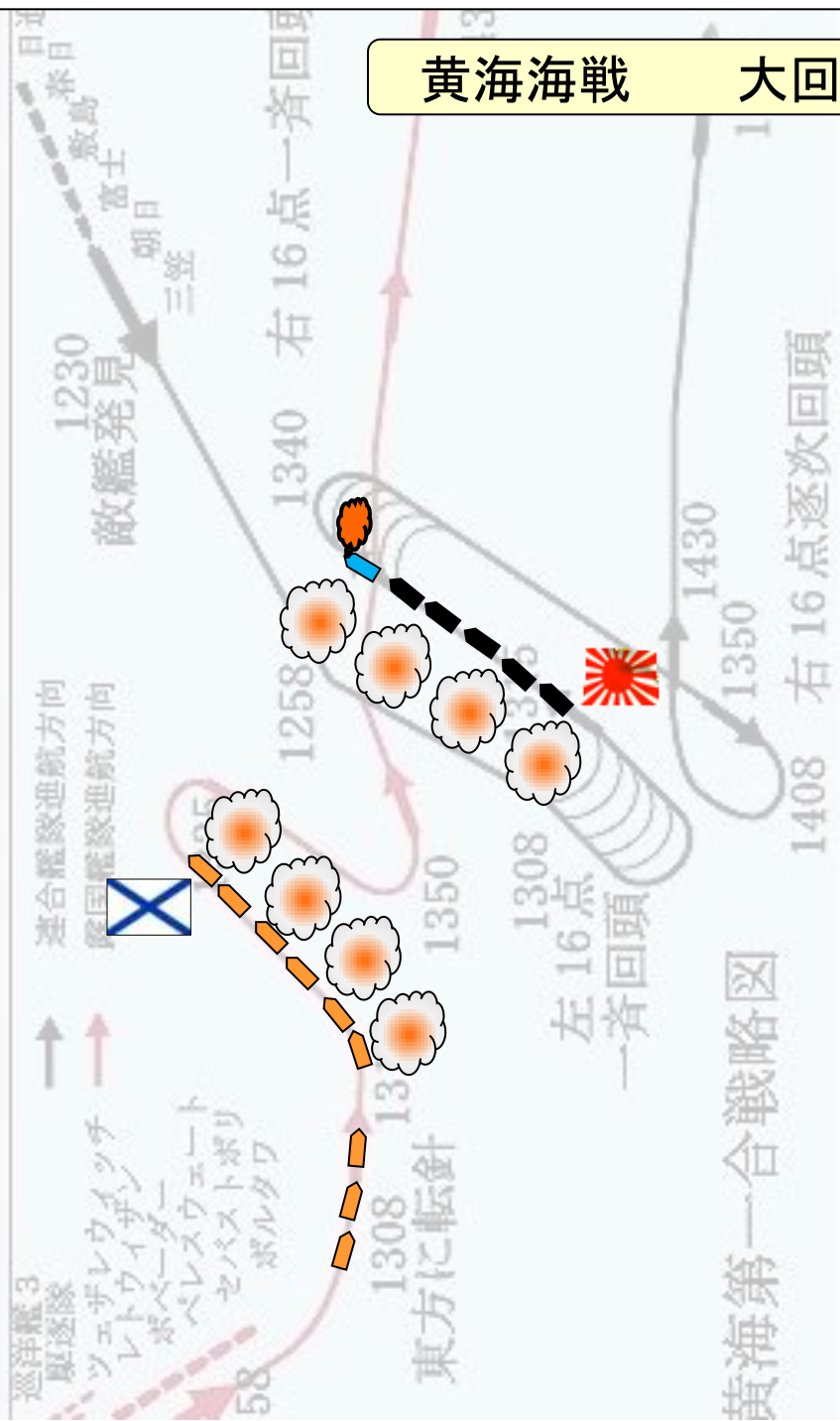


我が隊も速度を落とせ。撃沈でなくてもよいから、量と正確さで船足止めよ。

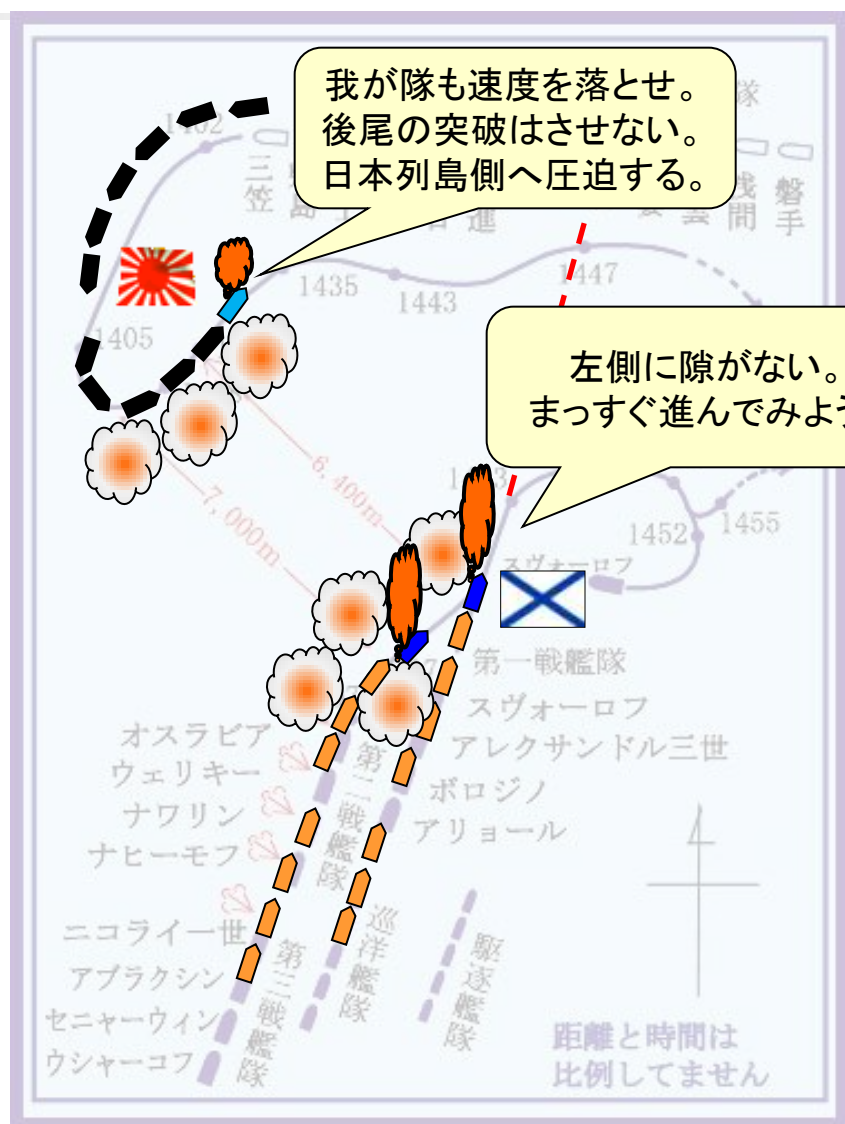
黄海海戦

大回頭20分後

対馬沖海戦



黄海第一合戦略図



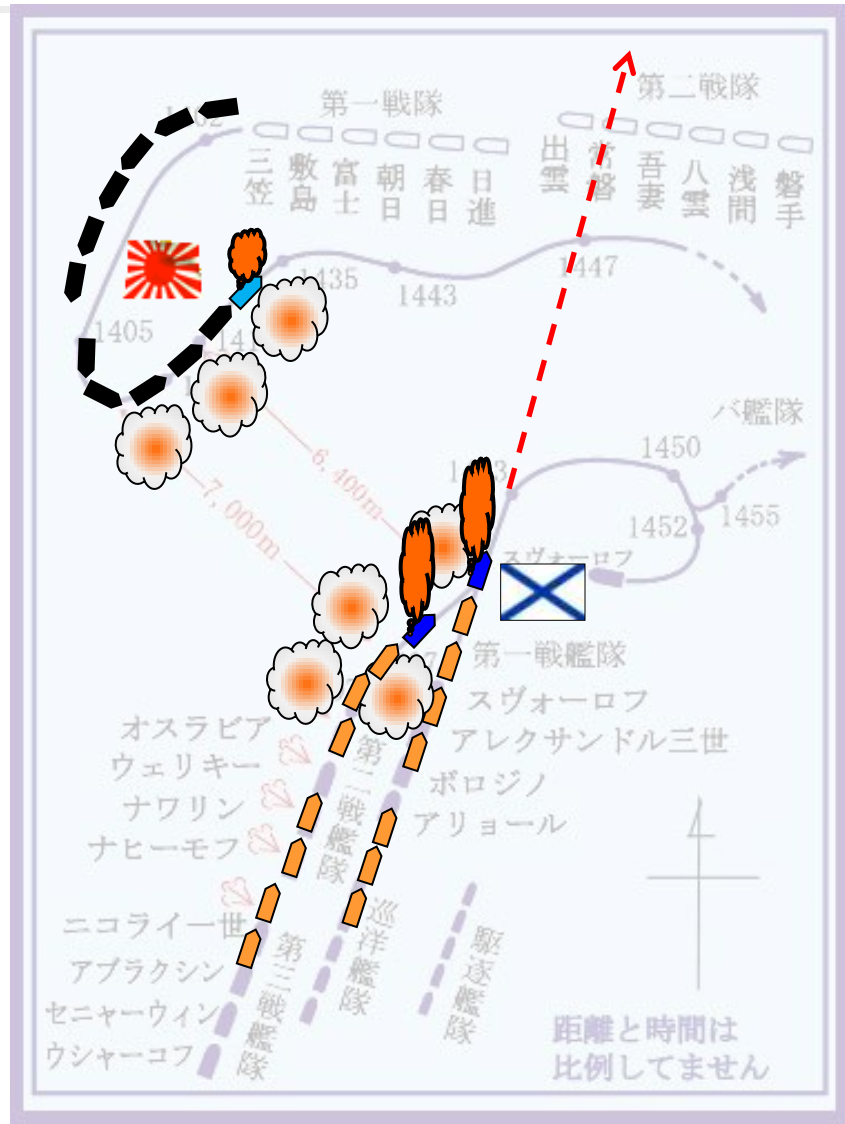
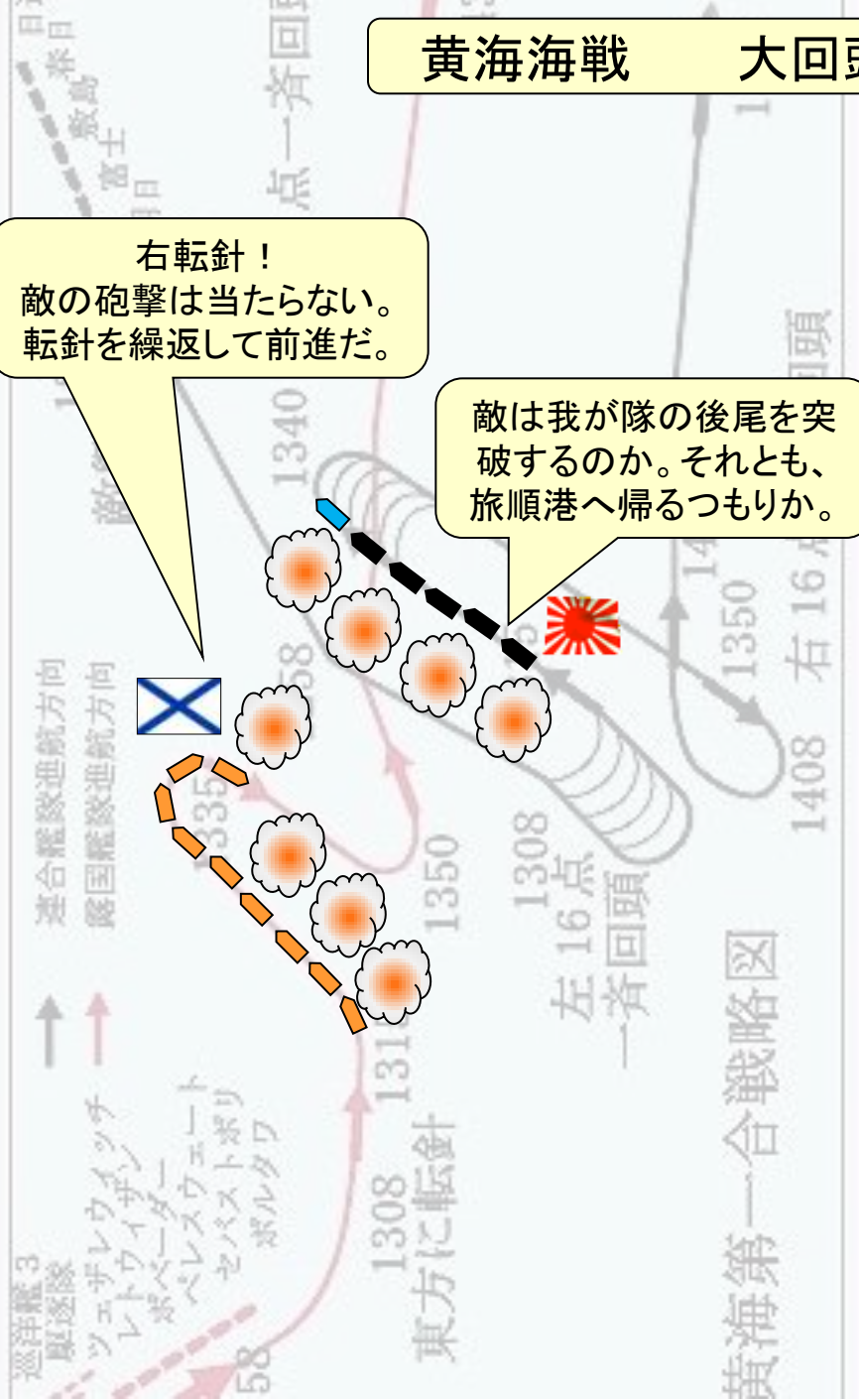
黄海海戦

大回頭25分後

対馬沖海戦

右転針！
敵の砲撃は当たらない。
転針を繰返して前進だ。

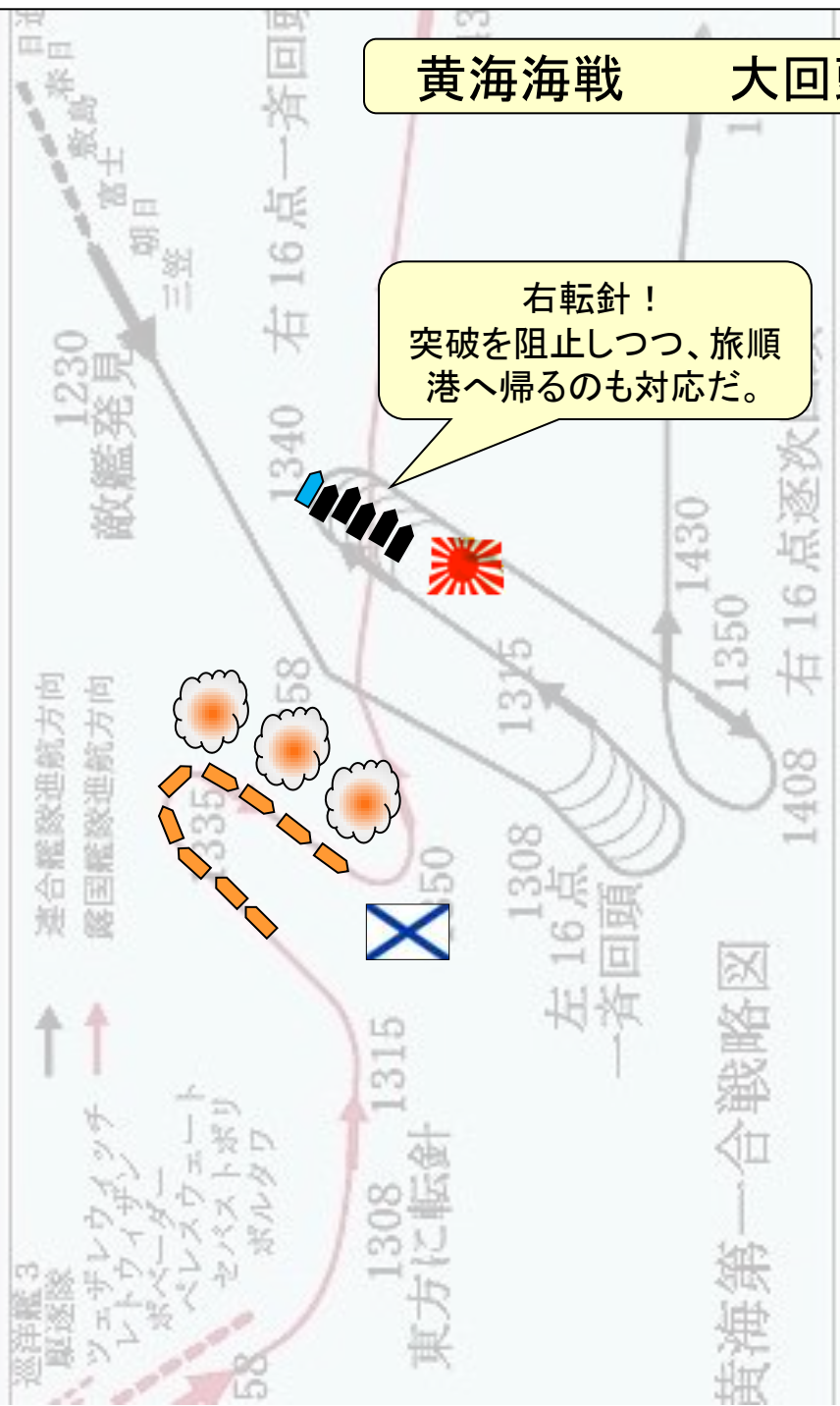
敵は我が隊の後尾を突破するの
か。それとも、旅順港へ帰るつもりか。



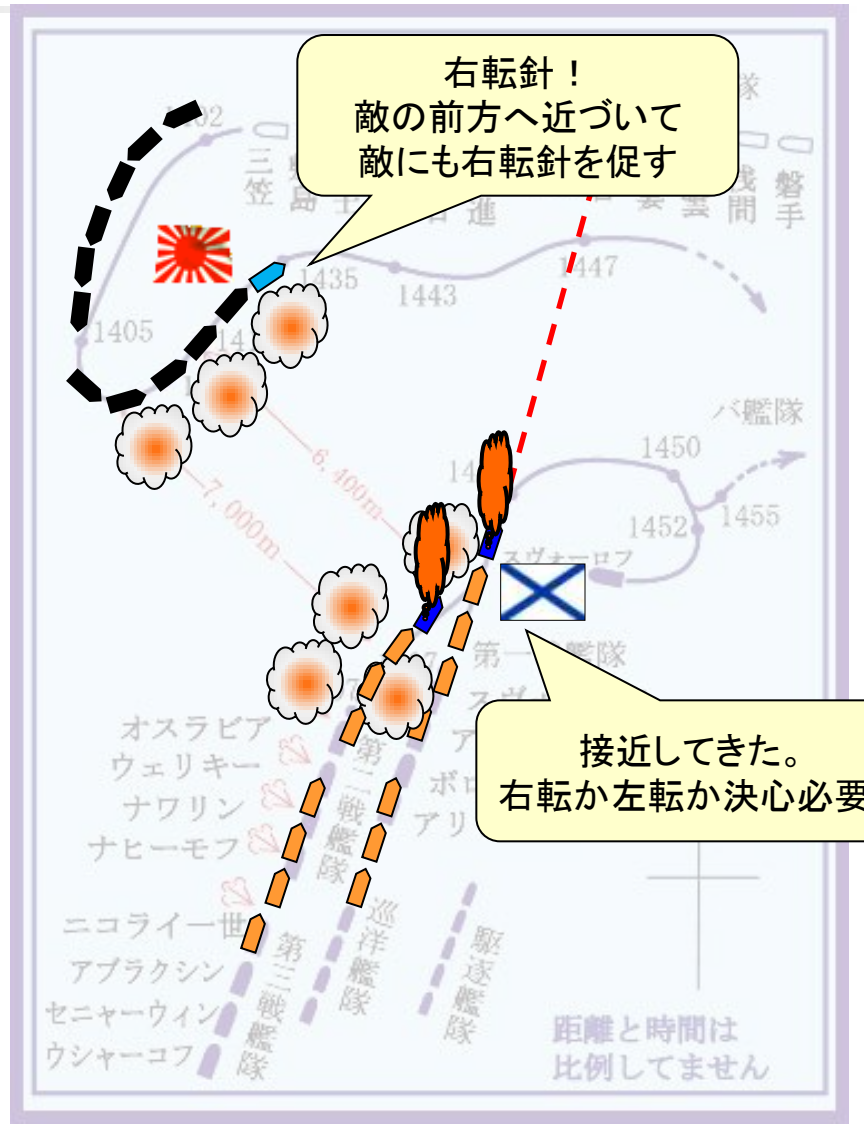
黄海海戦

大回頭30分後

対馬沖海戦



右転針！
突破を阻止しつつ、旅順港へ帰るのも対応だ。



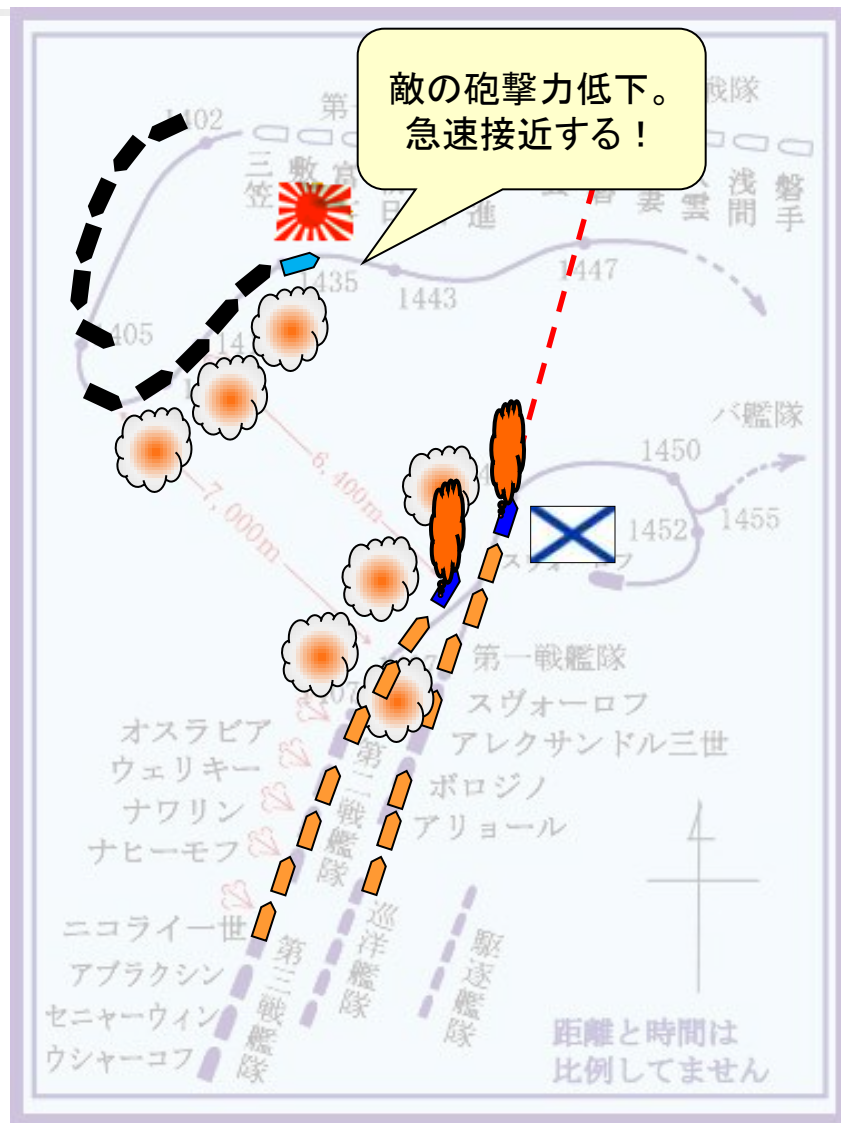
黄海海戦

大回頭35分後

対馬沖海戦

旅順港へ帰させぬのを優先。
敵艦隊の前方へ急げ。

敵はずいぶん先航した。
敵の後方を突破しやすくなった。左転針！



黄海海戦

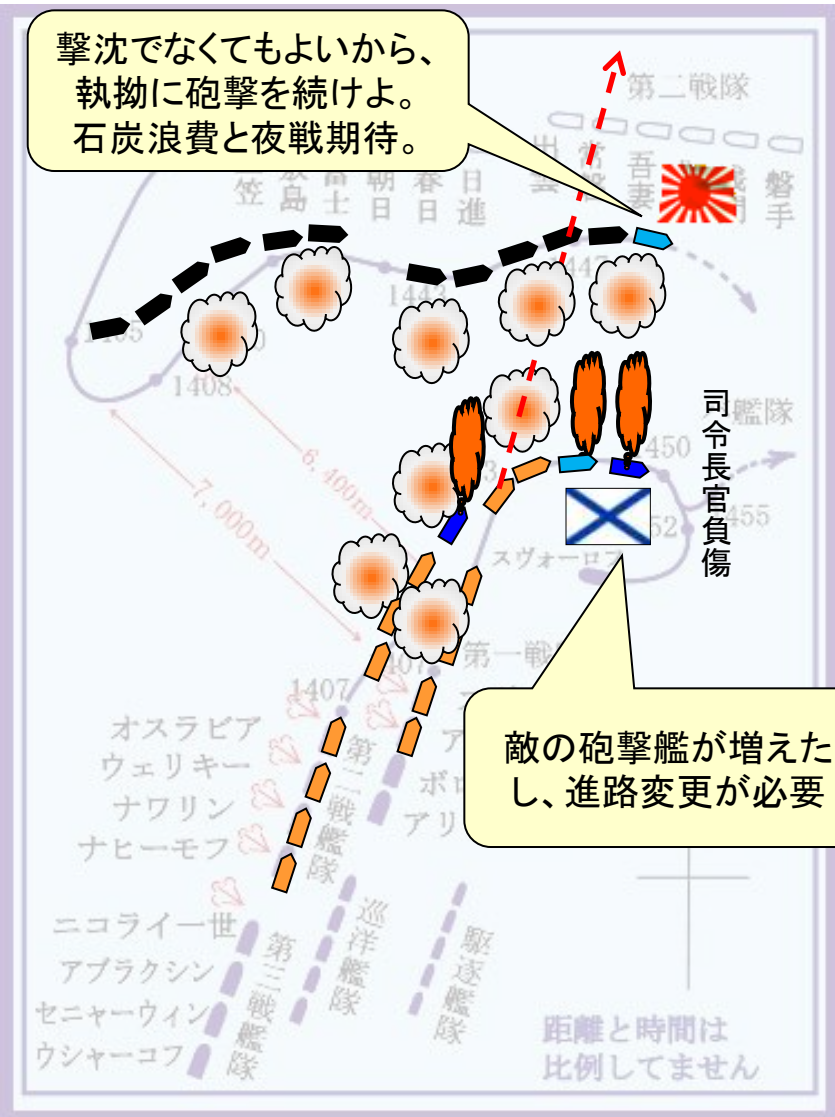
大回頭45分後

対馬沖海戦



黄海第一合戦略図

撃沈でなくてもよいから、
執拗に砲撃を続けよ。
石炭浪費と夜戦期待。

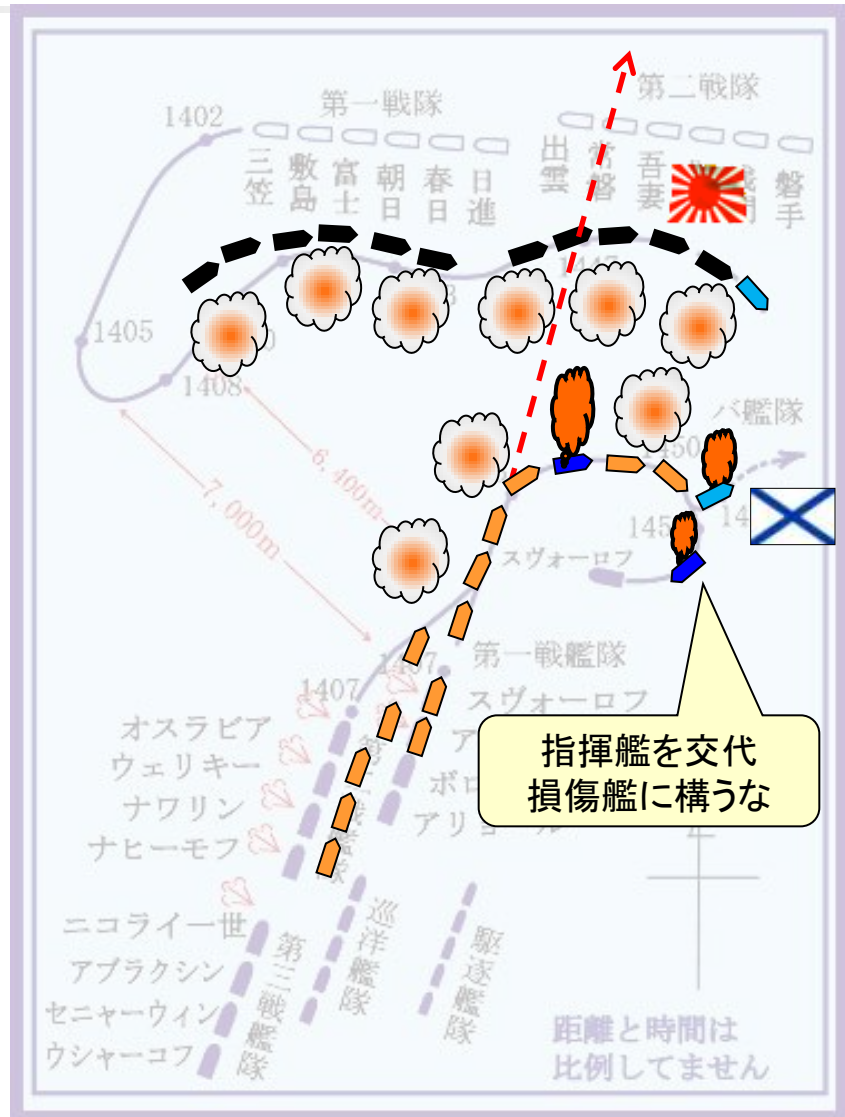
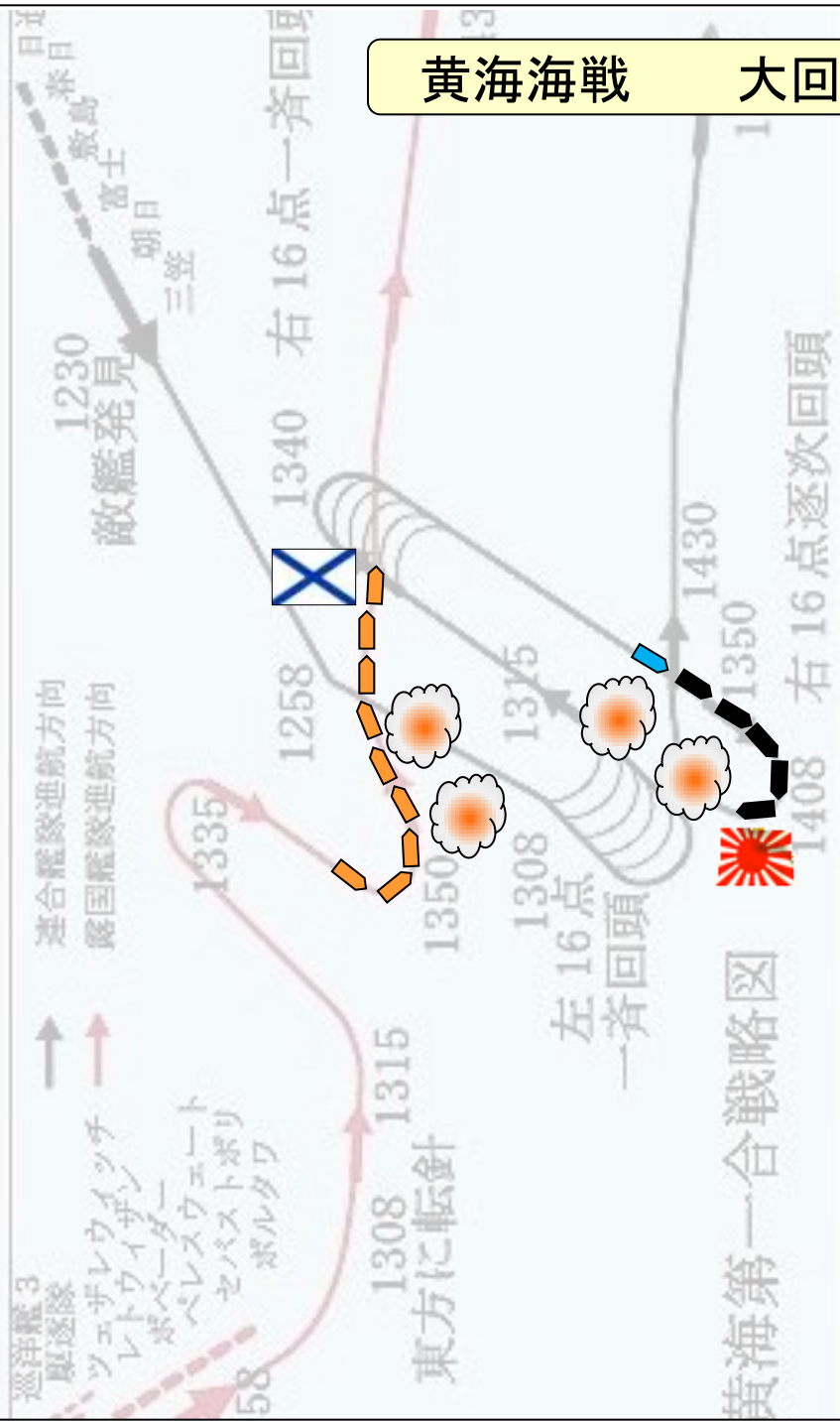


距離と時間は
比例してません

黄海海戦

大回頭50分後

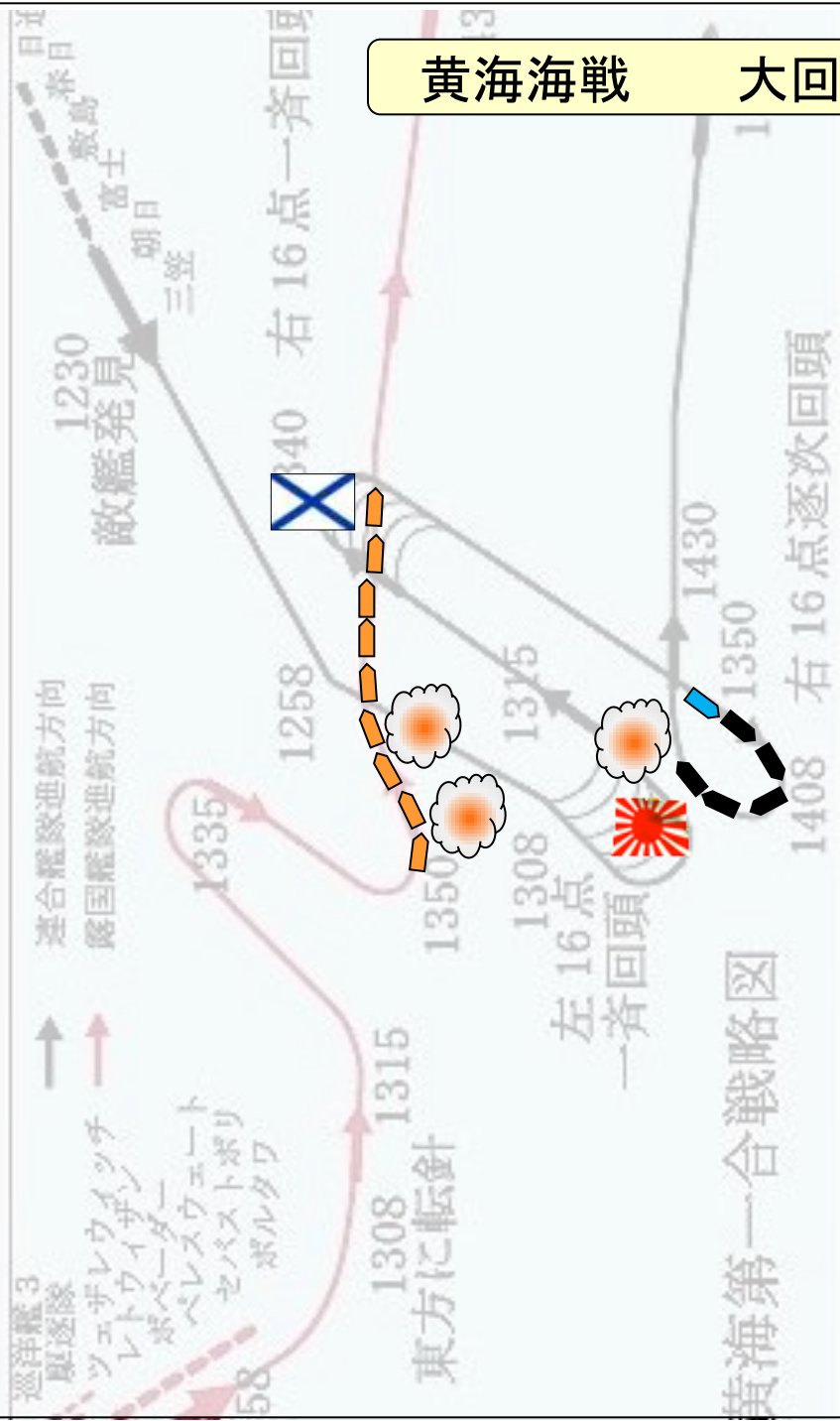
対馬沖海戦



黄海海戦

大回頭55分後

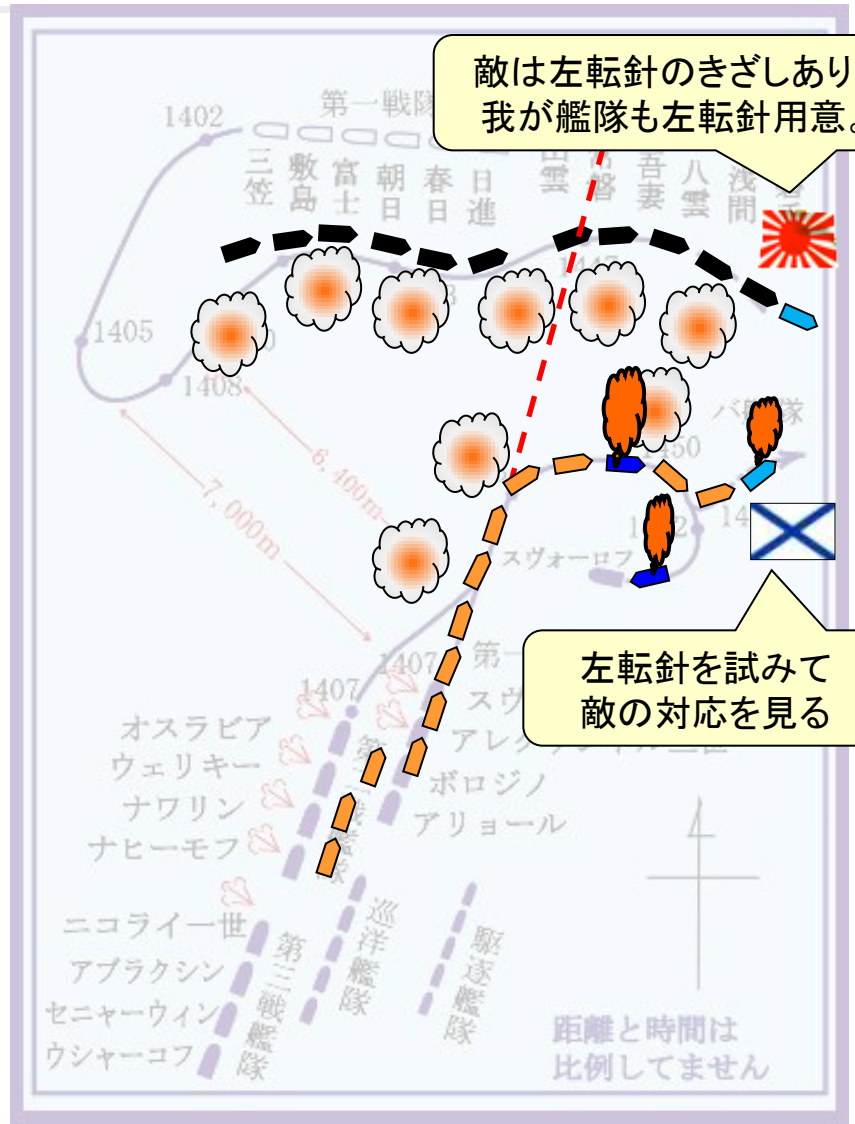
対馬沖海戦



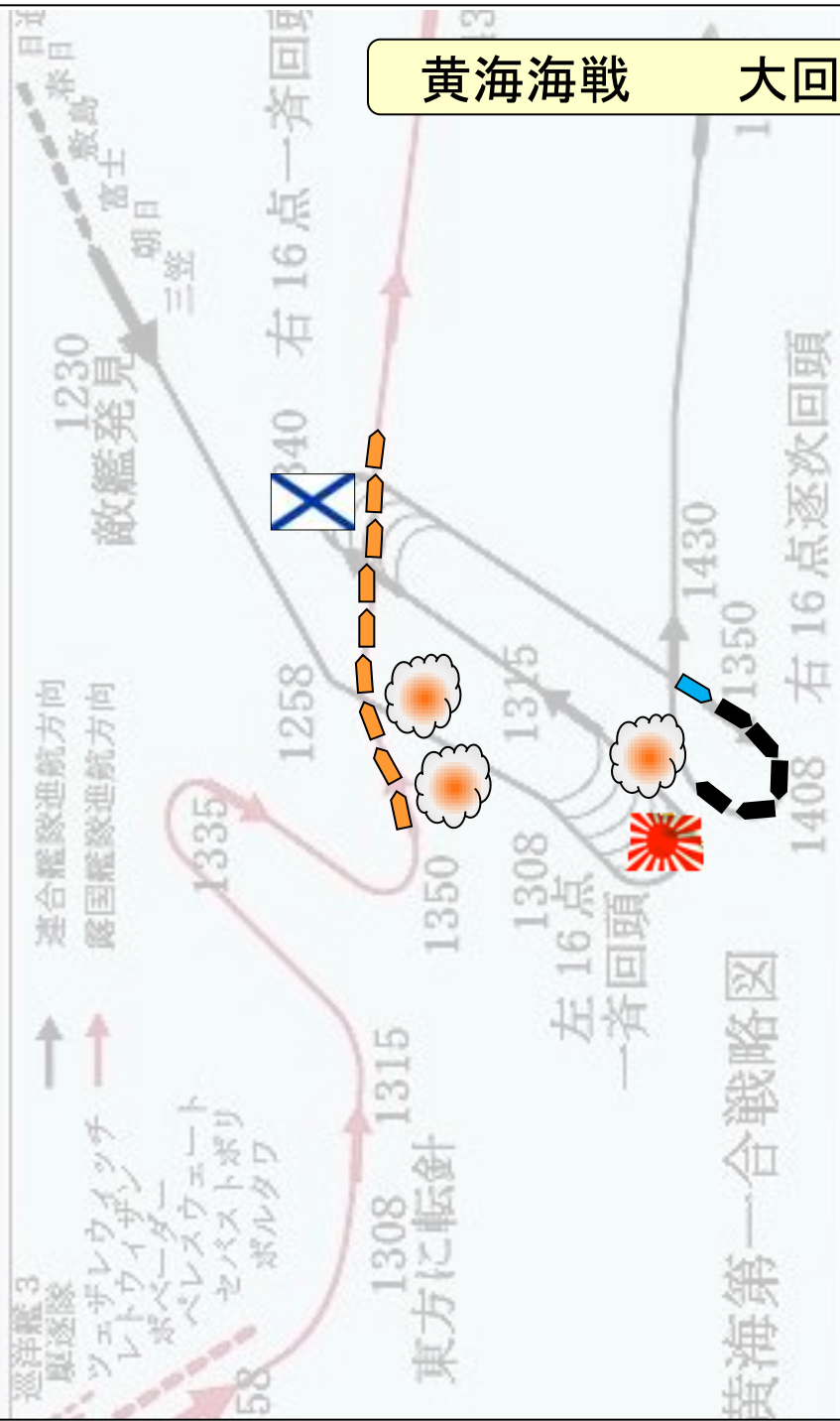
黄海第一合戦略図

敵は左転針のきざしあり。我が艦隊も左転針用意。

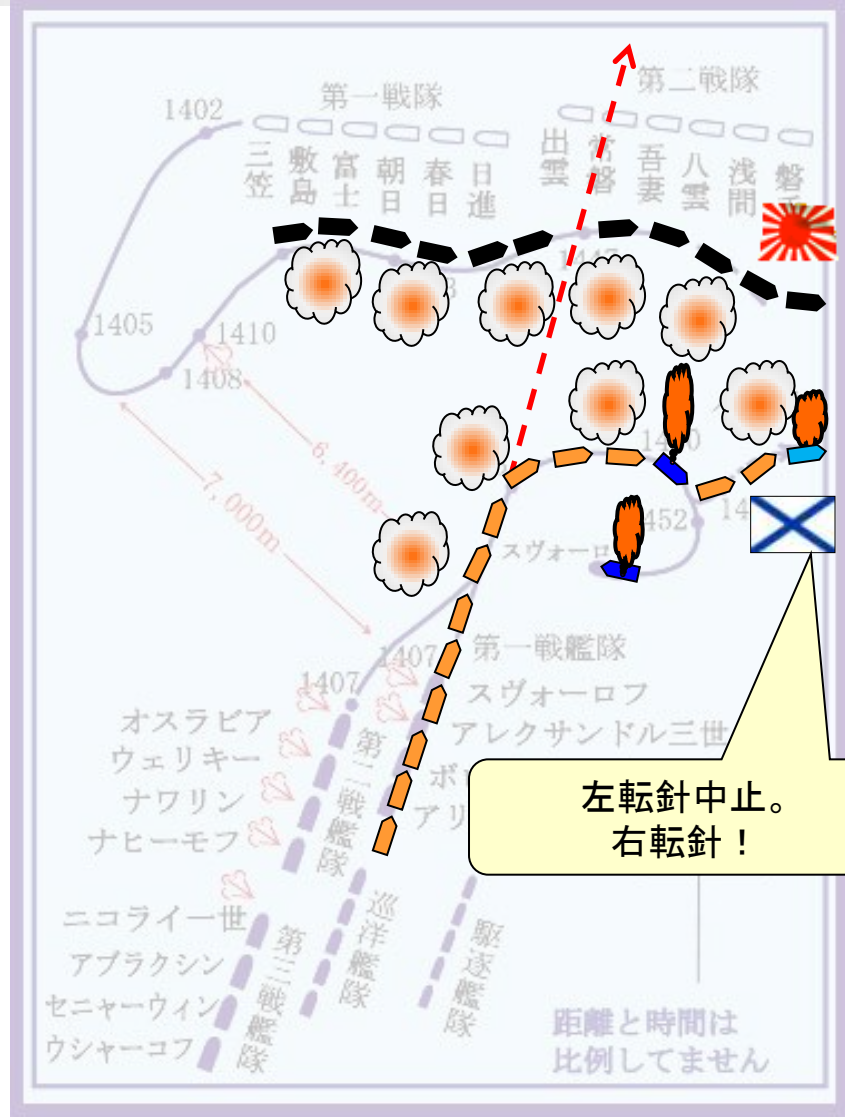
左転針を試みて敵の対応を見る



黄海海戦 大回頭60分後 対馬沖海戦



黄海第一合戦略図



左転針中止。
右転針！

距離と時間は
比例してません



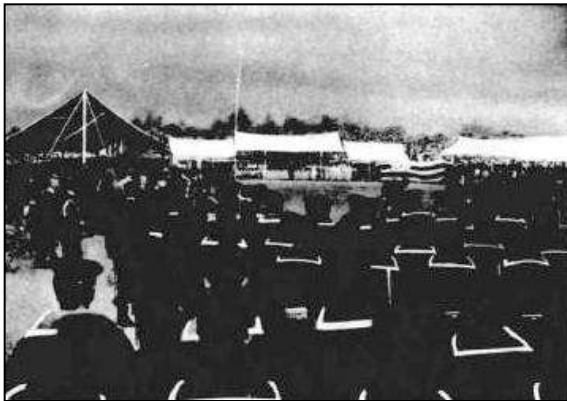
目的と達成度

- **日本艦隊の目的: ロシア艦隊の全艦艇を撃滅**
 - (結果的に) 2日がかりの戦闘での最終目的であった
 - 第一合戦では撃沈はなかったが、船足を止めるのに成功
 - 最終的にも撃沈はそれほど多くなかったが、敵は降服、自沈、逃避後の沈没・座礁などにより、艦艇をほぼ喪失
- **ロシア艦隊の目的: 多くの艦艇がウラジオ港へ到達**
 - 損傷艦放置や個別行動への転換を企画していた
 - 旗艦スウォロフの離脱など、少しは個別行動にしたが
 - 三つの戦艦隊を早くから別行動にすべきだったか？
- **日本の優秀さとロシア艦隊の稚拙さという事実はない**
 - 戦法以前の船足や時期の微妙な戦術レベルの問題
 - スポーツと同じで、どちらが成功しても不思議はない問題

海軍戦死者の祭典と祭詞

誠ニ迎ヘラル而シテ東郷聯合艦隊司令長官ハ麾下殉難ノ將卒カ此ノ歎ヲ共ニスル能ハサルヲ憾ミ二十九日其ノ祭典ヲ青山墓地ニ執行セリ是ノ日皇太子殿下ヨリハ特ニ黒水東宮武官ヲ遣サレテ幣帛ヲ賜ヒ各皇族殿下モ台臨アラセラル其ノ他内外文武官ノ來會スルモノ頗ル多ク東郷司令長官ハ恭シク左ノ祭詞ヲ奠シ式後更ニ各司令長官以下ト共ニ本派本願寺ノ主催ニ係ル海軍殉難將卒ノ追弔大法會ニ參列セリ

海陸ノ戦雲已ニ散シテ滿都ノ和氣靄々童幼歎ヒ迎ヘテ六親門ニ待ツ是レ諸子ト共ニ生死ヲ與ニシタル將卒カ大靈ノ下ニ凱旋セル頃日ノ光景ナリ回想スレハ諸子等カ泣寒ヲ冒シ炎熱ヲ凌キ屢勁敵ト闘フニ當リテヤ戦局ノ前途ハ尙未タ知ルニ由ナク諸子ノ逝ク毎ニ先ツ其ノ忠死ノ榮ヲ得タルヲ羨ミ我等モ亦必ス諸子ニ倣ウテ君國ニ報ユルヲ期セリ然ルニ諸子等ノ勇戦奮闘ハ常ニ其ノ効果ヲ奏シ皇軍戦フ毎ニ勝タサルコトナク旅順ノ連攻十閱月ニシテ大勢ヲ定メ日本海ノ鏖戦一舉ニ勝敗ヲ決シ爾後海上又敵影ヲ見サルニ至レリ是レ固ヨリ無量ノ皇德ニ基クト雖モ亦諸子等身ヲ外ニ忘レテ奉公シタルノ致ス所ナラスンハアラス今ヤ征戰其ノ終ヲ告ケ我等凱旋ノ將卒四顧歡喜ノ光景ヲ見ルニ當リ諸子ト此ノ悦ヲ分ツ能ハサルコトヲ懷ヒ悲喜交至リテ感慨云フヘカフサルモノアルヲ覺ユ然レトモ今日アルモノハ即チ諸士カ一死ノ榮アル所以ニシテ諸子ノ忠烈ハ永ク我カ海軍ノ精神ト爲リ以テ帝國ヲ無窮ニ守護セン茲ニ典ヲ舉ケテ諸子ノ靈ヲ祭リ聊カ懷ヲ述ヘテ弔詞ニ代フ尙クハ來リ參ケヨ



例大祭や敬礼

死後 PLAN

死亡 SEE

生存者 DO

- 発展途上の人

- 神社が担当
- 現実科学
- 実績を祝う

- お寺が担当
- 形式科学
- 死後、万能の叡智へ





おわり

対馬海戦ゼミ教材の改版

君島 浩、教育設計研究所